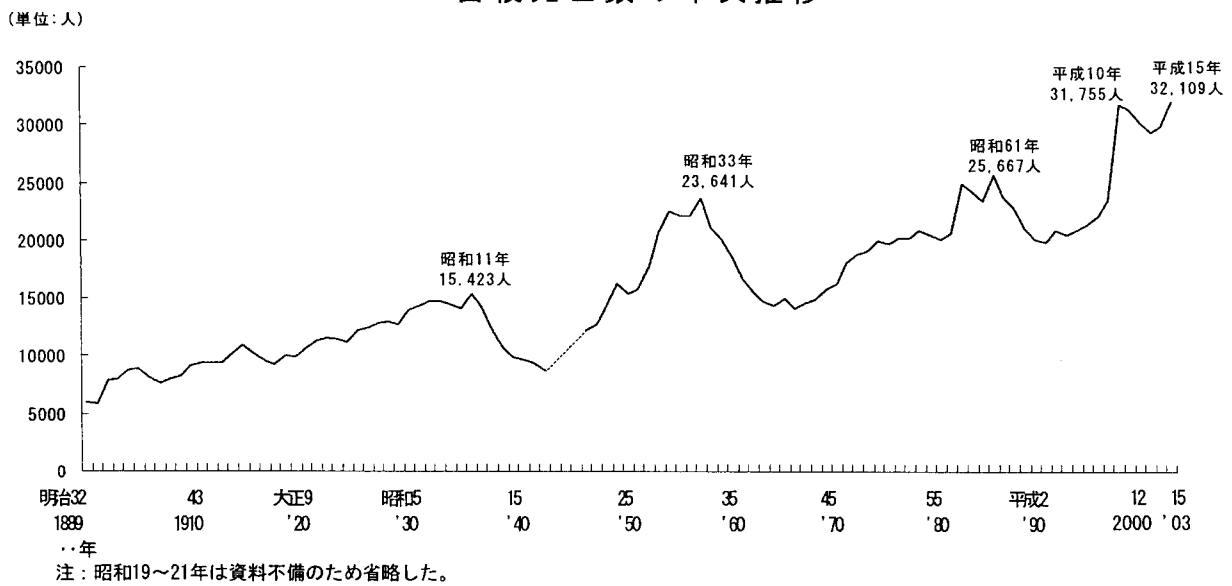


自殺死亡統計のポイント

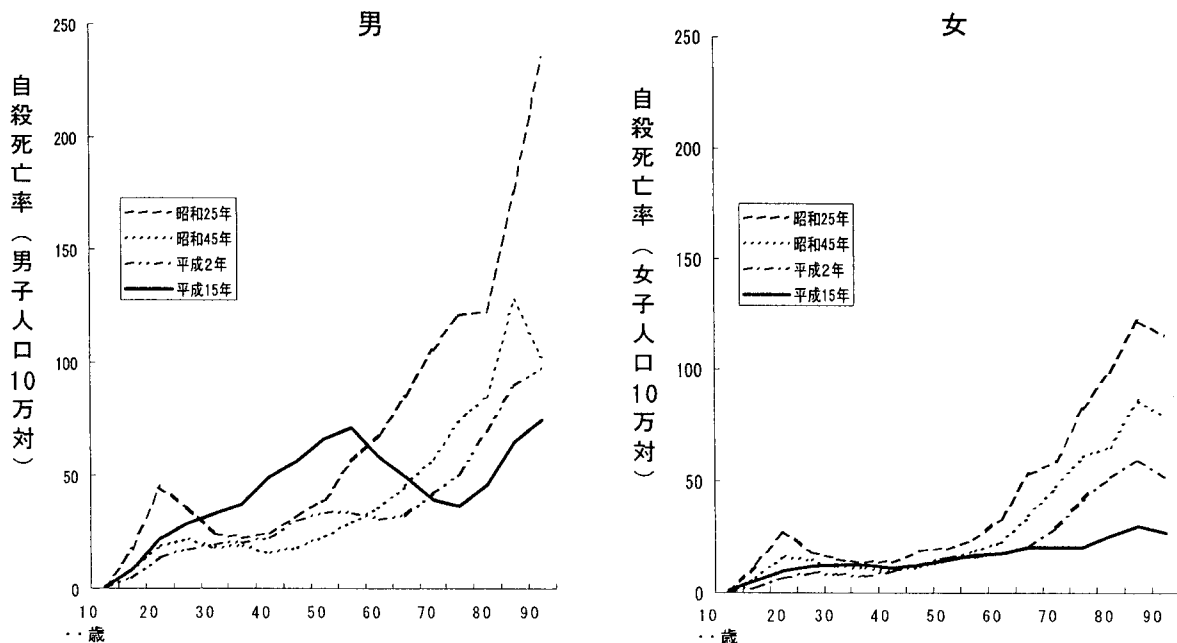
- 1 年次推移をみると昭和30年前後、昭和60年前後に山があり、現在は平成10年から始まる第3の山で最も高い

自殺死亡数の年次推移



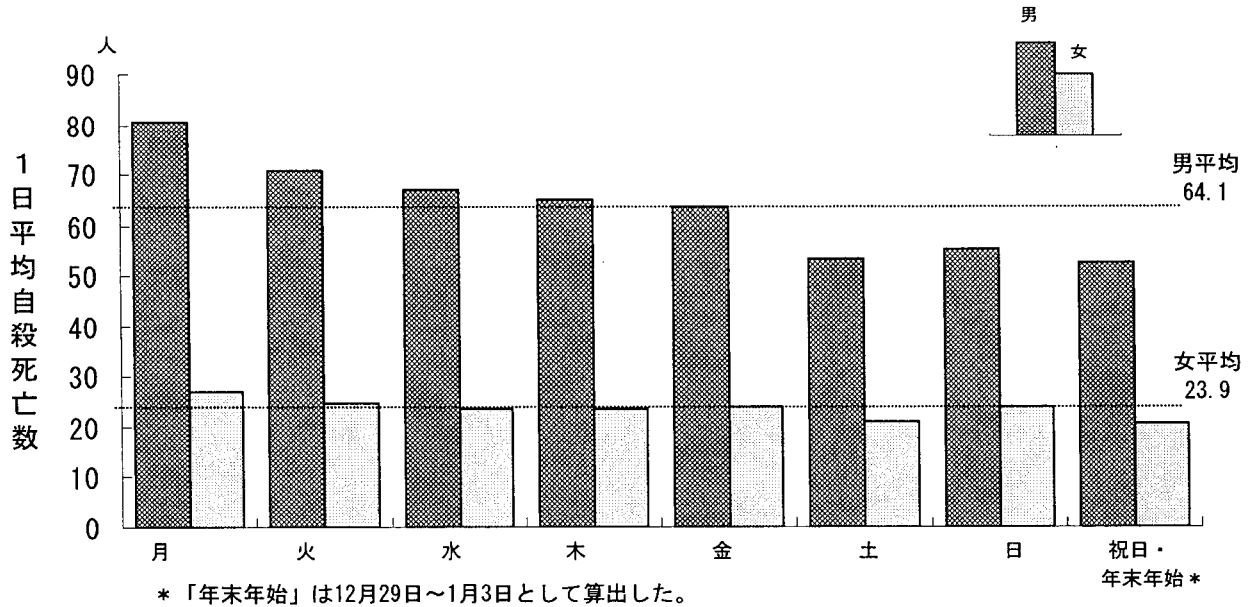
- 2 年次別年齢階級別にみると、平成15年には男の50歳代をピークとする大きな山が形成され、高齢者の自殺死亡率は著しく低下

性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率の年次比較



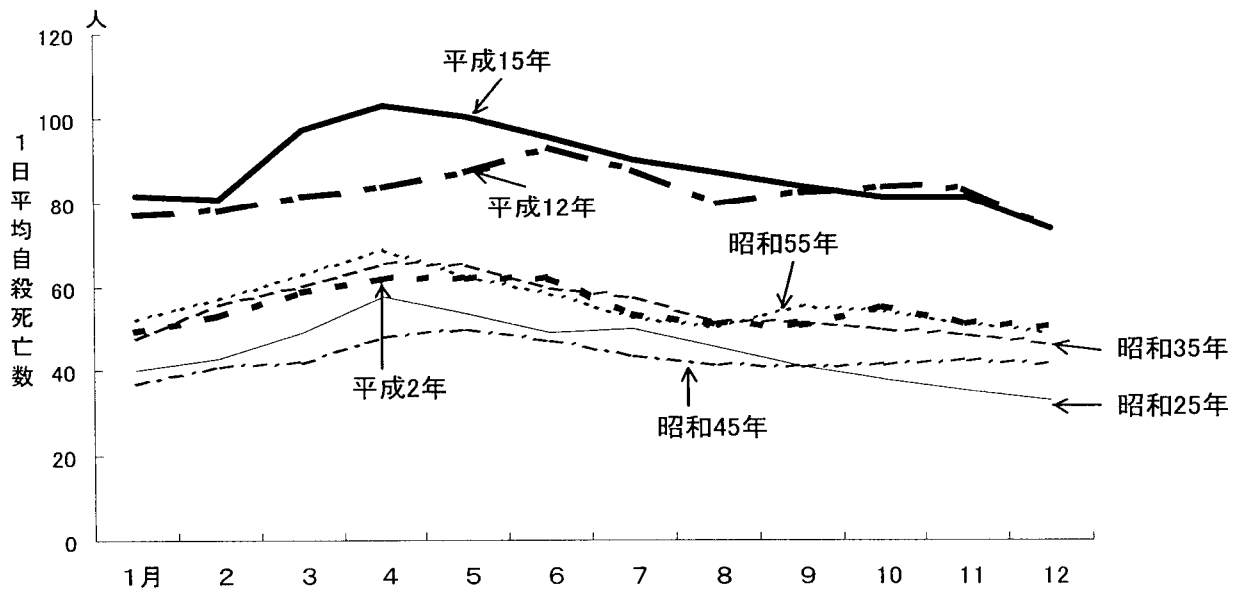
3 曜日別にみると、「月曜日」が最も多く、「土曜日」が最も少ない

性・曜日別 1日平均自殺死亡数 -平成15年-



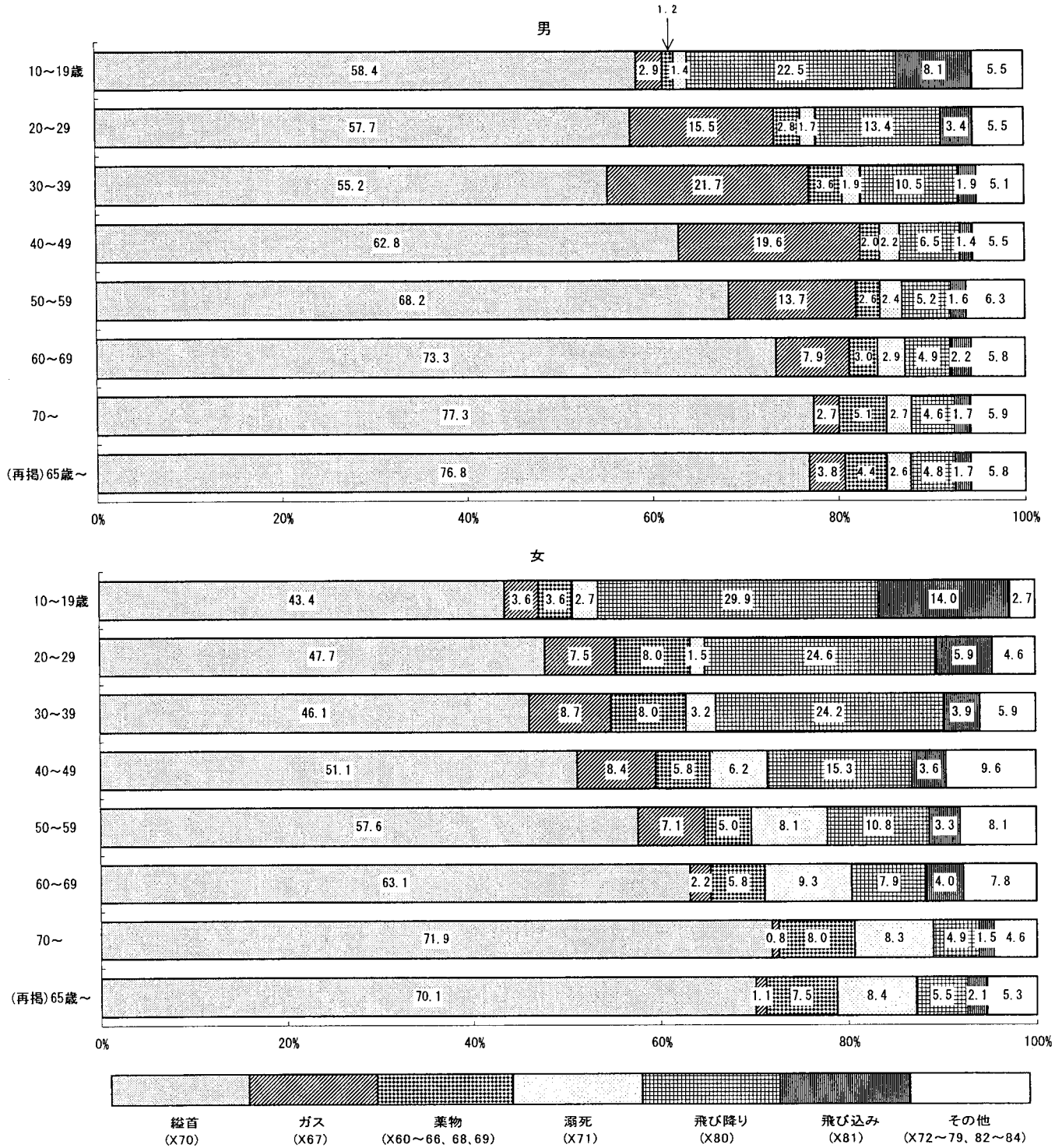
4 月別にみると、多くの年で4・5月がピーク

死亡月別 1日平均自殺死亡数の年次推移



5 手段別の構成割合をみると、男女別、年齢階級別にかなりの違いがみられる

性・年齢(10歳階級)・手段別自殺死亡数構成割合 —平成15年—



自殺死亡統計の概況

人口動態統計特殊報告

目次	
1. 自殺死亡統計について	1
2. 自殺死亡の年次推移	
(1) 自殺死亡数の年次推移	2
(2) 総死亡率(人口10万対)及び自殺死亡率(人口10万対)の年次推移	2
(3) 年齢調整死亡率の年次推移	3
3. 年齢別にみた自殺	
(1) 性・年齢階級別自殺死亡率(人口10万対)の年次比較	4
(2) 性・年齢階級別死亡数に占める自殺死亡数の割合、自殺の死因順位	5
4. 死亡曜日・時間別にみた自殺	
(1) 死亡曜日別にみた自殺	6
(2) 死亡時間別にみた自殺	7
5. 月別にみた自殺	8
6. 配偶関係別にみた自殺	9
7. 手段別にみた自殺	
(1) 年次比較	10
(2) 年齢階級別	11
8. 都道府県別にみた自殺	
(1) 自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率(人口10万対)	12
(2) 手段別自殺死亡数割合	13
9. 職業・産業別にみた自殺	14
10. 平成6年～平成15年の状況	
(1) 年齢別にみた自殺	16
(2) 手段別にみた自殺	17
11. 諸外国の自殺死亡率	18
12. 統計表	
第1表 総死亡数・死亡率(人口10万対)・自殺死亡数・死亡率(人口10万対)の年次推移	20
第2表 性・年齢(5歳階級)別死因順位	22
第3表 性・手段別自殺死亡数構成割合の年次推移	23
第4表 性・都道府県別自殺年齢調整死亡率(人口10万対)の年次推移	24
13. 参考	
観察対象の範囲	25
自殺の分類及び内容	26
比率の解説	27
警察庁「自殺の概要」	
参考表 性・年齢・原因・動機別自殺者数 —平成15年—	28

厚生労働省大臣官房統計情報部
人口動態・保健統計課

電話：代表 03-5253-1111
担当係：計析第一係(内線7470)

この資料は、厚生労働省ホームページに掲載しています。
掲載場所：「統計情報」→「最近公表の統計資料」
→「自殺死亡統計の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/suicide04/index.html>

1. 自殺死亡統計について

自殺死亡統計は、毎年公表している人口動態統計をもとに、時系列分析など自殺による死亡の状況について分析を行い、人口動態統計特殊報告として取りまとめたものである。なお、この「自殺死亡統計」は、昭和52(1977)年、昭和59(1984)年、平成2(1990)年、平成11(1999)年に続いて今回で5回目であり、その概要は、以下のとおりである。

刊行	年	期 間	調 査 項 目 ・ 内 容
1	昭和52年 (1977)	大正9年～昭和49年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 手段別、職業・産業別、都道府県別、国際比較
2	昭和59年 (1984)	昭和50年～昭和57年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、都道府県別訂正死亡率、 国際比較
3	平成2年 (1990)	昭和58年～昭和63年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、職業・産業別、 都道府県別訂正死亡率、国際比較、 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載
4	平成11年 (1999)	平成元年～平成9年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、都道府県別年齢調整死亡率、 国際比較 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載
5	平成17年 (2005)	平成6年～平成15年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、曜日別、時間別、死亡月別1日平均、 配偶関係別、手段別、都道府県別、 職業・産業別、平成6年～平成15年の状況、 国際比較 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載

表 章 記 号 の 規 約

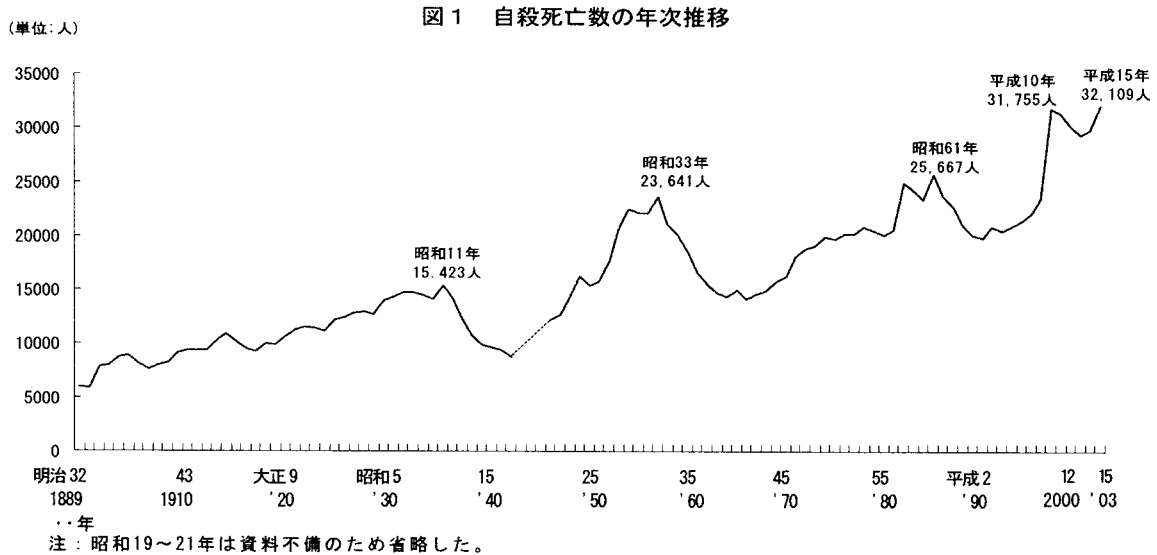
計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

2. 自殺死亡の年次推移

(1) 自殺死亡数の年次推移

自殺死亡数の年次推移をみると、明治32年の5,932人から昭和11年の15,423人までは増加傾向を示しているが、昭和12年から戦時中まで減少傾向となっている。

戦後は、再び増加傾向となるが、戦前と異なり、増減を繰り返し、過去2回の高い山があり最近も1つの山を形成している。1番目の山は毎年2万人を超えた昭和29年～35年であり、2番目の山は毎年2万3千人を超えた昭和58～62年である。最近の山は3万人前後で推移している。(図1、表1、統計表第1表)



(2) 総死亡率(人口10万対)及び自殺死亡率(人口10万対)の年次推移

総死亡率をみると、戦後急激に低下して昭和30年代以降は700前後で推移していたが、近年高齢化の進行に伴い徐々に高くなり、平成15年には800を超えている。

自殺死亡率をみると、総数と男については、自殺死亡数と同様に3つの山を形成しており、平成15年の男は38と最も高くなっている。(図2、表1、統計表第1表)

図2 総死亡率及び自殺死亡率の年次推移

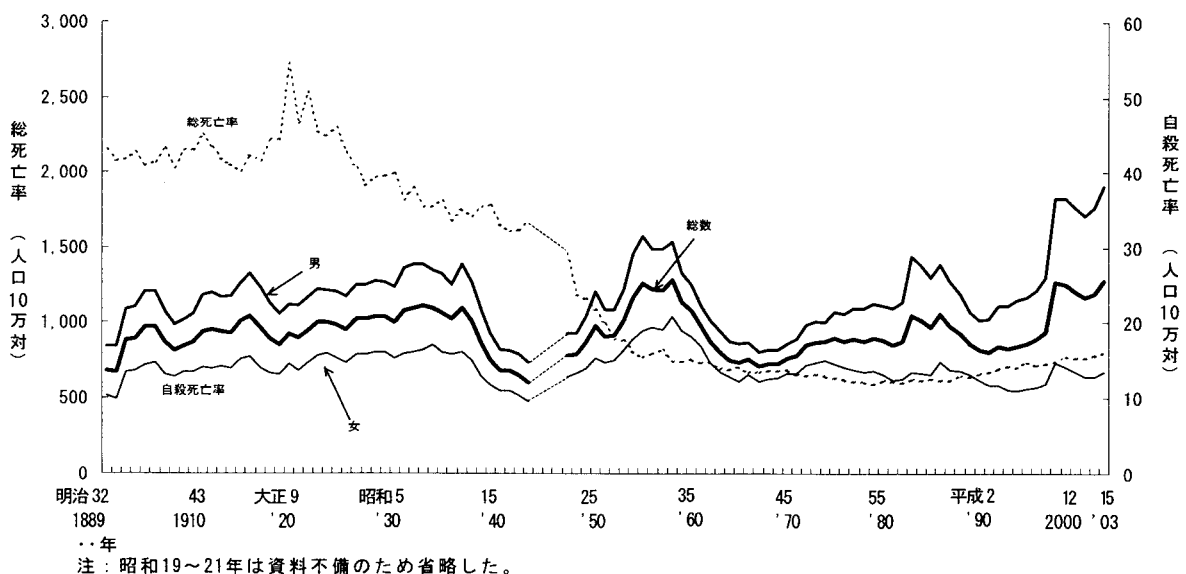


表 1 性別自殺死亡数・自殺死亡率（人口 10 万対）の年次推移

	昭和25年 (1950)	30 ('55)	35 ('60)	40 ('65)	45 ('70)	50 ('75)	55 ('80)	60 ('85)	平成2年 ('90)	7 ('95)	12 (2000)	15 ('03)
	死 亡 数											
総 数	16 311	22 477	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	32 109
男	9 820	13 836	11 506	8 330	8 761	11 744	12 769	15 356	12 316	14 231	21 656	23 396
女	6 491	8 641	8 637	6 114	6 967	8 231	7 773	8 027	7 772	7 189	8 595	8 713
	死 亡 率 (人口 10 万対)											
総 数	19.6	25.2	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	25.5
男	24.1	31.5	25.1	17.3	17.3	21.5	22.3	26.0	20.4	23.4	35.2	38.0
女	15.3	19.0	18.2	12.2	13.3	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	13.5

(3) 年齢調整死亡率の年次推移

年齢調整死亡率を年次別にみると、全死因では、男は平成 12 年が昭和 25 年の 3 分の 1 程度、女は 4 分の 1 程度となっているが、自殺で見ると、男は昭和 25 年と平成 12 年が同程度であるのに比べ、女は半分程度になっている。

また、男女の年齢調整死亡率を比較すると、昭和 25 年には「全死因」は男が女の約 1.3 倍、「自殺」は約 1.7 倍であったが、徐々に男と女の差が大きくなり、平成 12 年には「全死因」では男が女の約 2 倍、「自殺」では男が女の約 3 倍となっている。

(表 2)

表 2 年齢調整死亡率（人口 10 万対）の年次推移

	昭和25年 (1950)	30 ('55)	35 ('60)	40 ('65)	45 ('70)	50 ('75)	55 ('80)	60 ('85)	平成2年 ('90)	7 ('95)	12 (2000)	
全死因	男	1 858.6	1 482.0	1 476.1	1 369.9	1 234.6	1 036.5	923.5	812.9	747.9	719.6	634.2
	女	1 457.8	1 099.3	1 042.3	931.5	823.3	685.1	579.8	482.9	423.0	384.7	323.9
自殺	男	35.1	38.5	30.0	21.8	20.6	24.1	24.3	26.9	20.0	21.3	30.7
	女	20.7	22.4	20.6	14.4	14.7	15.6	13.4	12.5	10.8	9.3	10.7

注：年齢調整死亡率の基準人口は、昭和60年モデル人口である。

3. 年齢別にみた自殺

(1) 性・年齢階級別自殺死亡率(人口10万対)の年次比較

性・年齢階級別の自殺死亡率を年次別にみると、男では、昭和25年には20歳代で一つの山を形成しているが、昭和45年には20歳代の山が消失し、85歳がピークとなっている。また、平成2年には40歳代から50歳代にかけて小さな山があり、平成15年には50歳代をピークとする大きな山がある。女では、昭和25年には20歳代で死亡率が高いのは男と同様であるが、男の平成15年にみられるような50歳代の山はない。また、男女とも、70歳以上では死亡率の低下傾向がみられる。

(図3、図4、表3)

図3 性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率の年次比較

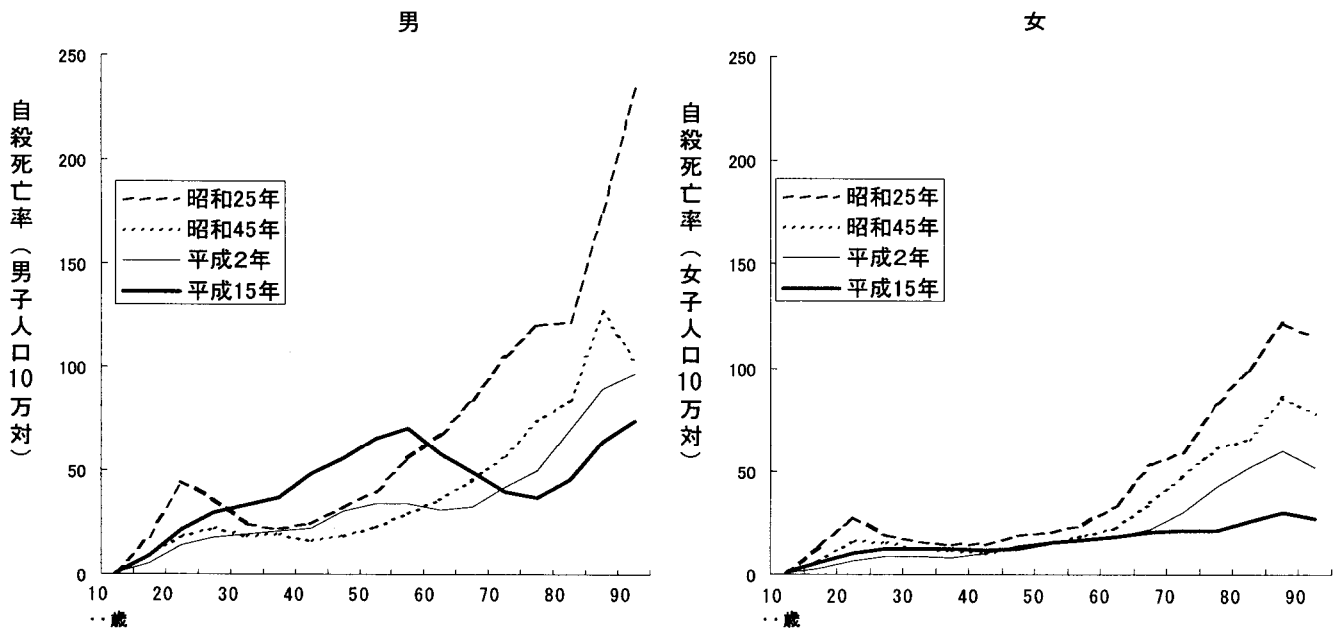


図4 性・特定年齢別自殺死亡率(人口10万対)の年次推移

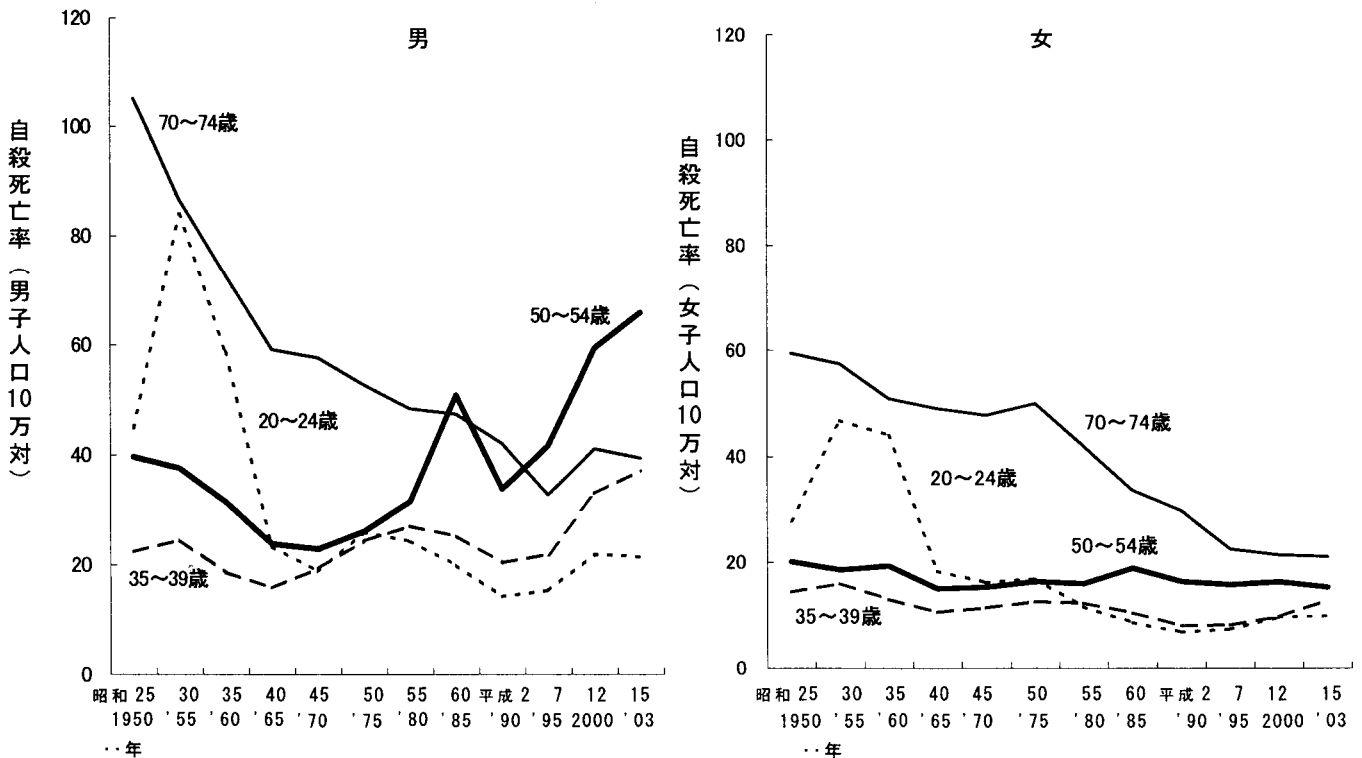


表3 性・年齢（5歳階級）別自殺死亡率（人口10万対）の年次比較

年齢階級	昭和25年 (1950)	30 ('55)	35 ('60)	40 ('65)	45 ('70)	50 ('75)	55 ('80)	60 ('85)	平成2年 ('90)	7 ('95)	12 (2000)	15 ('03)
男												
総数	24.1	31.5	25.1	17.3	17.3	21.5	22.3	26.0	20.4	23.4	35.2	38.0
10～14歳	—	1.1	0.7	0.7	1.0	1.5	0.9	1.1	0.7	1.1	1.7	1.0
15～19	17.5	37.2	25.3	8.8	8.7	12.6	9.5	6.8	4.8	6.6	8.9	8.8
20～24	44.9	84.1	58.7	23.3	18.8	26.0	24.3	19.9	14.2	15.3	22.0	21.5
25～29	36.0	54.7	44.1	23.8	22.0	26.0	26.5	23.8	17.5	20.0	24.4	29.2
30～34	24.4	30.3	22.9	18.0	18.3	24.9	24.0	23.1	19.5	20.2	28.8	32.9
35～39	22.4	24.5	18.6	15.8	19.3	24.4	27.1	25.3	20.4	21.9	33.0	37.2
40～44	24.3	23.6	18.6	15.4	16.4	27.5	31.2	36.7	22.4	26.0	36.8	49.0
45～49	32.5	32.1	23.7	20.7	18.1	27.2	34.9	48.3	30.4	31.4	49.0	56.3
50～54	39.7	37.6	31.4	23.8	22.9	26.1	31.5	51.0	33.8	41.7	59.5	66.0
55～59	56.1	47.8	39.2	32.7	29.7	29.7	32.5	44.5	33.8	41.1	72.5	71.1
60～64	67.7	55.3	49.5	42.1	35.9	36.7	32.5	36.9	31.1	37.1	58.2	58.4
65～69	85.1	67.8	60.3	52.3	45.7	41.0	34.8	38.5	32.7	28.9	48.1	49.4
70～74	105.3	86.7	72.7	59.1	57.6	52.8	48.5	47.5	42.1	32.7	41.2	39.5
75～79	121.0	111.1	86.3	76.1	74.2	73.9	62.4	65.5	50.5	42.5	39.1	36.9
80～84	122.4	122.4	97.6	110.2	85.1	104.5	80.6	79.5	69.9	54.4	55.4	45.5
85～89	175.5	130.0	91.3	89.8	127.4	96.3	108.3	102.3	89.9	73.1	71.1	64.5
90～	235.3	120.1	48.4	80.1	103.0	110.8	108.6	101.4	97.0	97.5	78.8	74.8
女												
総数	15.3	19.0	18.2	12.2	13.3	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	13.5
10～14歳	0.0	0.7	0.4	0.3	0.4	0.6	0.3	0.5	0.4	0.6	0.5	1.1
15～19	13.0	26.1	22.4	6.1	6.9	6.8	4.9	3.3	2.8	3.3	3.8	5.6
20～24	27.8	46.8	44.0	18.3	16.2	16.9	11.6	8.7	6.9	7.4	9.7	9.9
25～29	18.8	28.0	25.3	16.1	15.4	15.3	12.3	9.7	9.1	7.7	11.5	12.4
30～34	16.1	18.1	16.9	11.1	12.3	13.9	10.7	9.9	8.8	8.6	11.3	12.6
35～39	14.4	16.0	13.0	10.6	11.4	12.6	12.3	10.5	8.1	8.2	9.8	12.8
40～44	14.4	14.8	12.9	8.7	10.3	13.2	12.9	13.6	10.1	8.8	10.5	11.6
45～49	19.0	16.5	16.4	11.3	12.2	13.8	14.4	15.8	13.7	10.8	12.2	12.6
50～54	20.2	18.6	19.3	15.0	15.3	16.4	16.0	18.9	16.4	15.8	16.3	15.3
55～59	24.1	22.5	20.7	16.0	19.0	18.1	17.2	17.2	16.8	15.6	18.4	17.1
60～64	33.4	30.8	29.5	23.4	22.8	23.8	18.8	20.1	18.4	15.7	19.9	18.2
65～69	53.8	40.4	42.8	33.6	35.2	33.9	30.2	26.4	21.8	17.0	19.7	20.7
70～74	59.5	57.5	51.0	49.1	47.8	50.1	41.9	33.6	29.7	22.5	21.4	21.1
75～79	83.3	65.6	62.8	59.5	61.5	67.5	55.6	47.9	42.3	28.0	26.2	20.9
80～84	99.9	76.5	74.3	80.3	66.0	78.0	65.4	59.9	52.0	37.6	32.8	25.5
85～89	122.8	123.9	74.3	75.5	86.8	83.7	64.3	66.3	60.3	41.0	36.2	30.3
90～	115.7	118.1	54.3	83.7	78.7	66.8	67.5	49.1	52.4	44.6	37.4	27.4

注：「総数」には5～9歳及び年齢不詳を含む。

(2) 性・年齢階級別死亡数に占める自殺死亡数の割合、自殺の死因順位

表4 性・年齢（5歳階級）別総死亡数に占める自殺死亡数の割合・死因順位 —平成15年—

性・年齢階級別に平成15年の自殺死亡数の総死亡数に占める割合をみると、男女とも「25～29歳」が最も高くなっている。

次に自殺の死因順位をみると、男では20～44歳で1位、女では15～34歳で1位となっている。

(表4、統計表第2表)

年齢階級	総数		男		女	
	割合(%)	死因順位	割合(%)	死因順位	割合(%)	死因順位
総数	3.2	6	4.2	6	1.9	8
10～14歳	9.7	3	8.5	4	11.2	3
15～19	23.6	2	21.5	2	28.1	1
20～24	36.9	1	36.4	1	38.0	1
25～29	40.8	1	41.6	1	38.9	1
30～34	36.1	1	38.9	1	30.2	1
35～39	28.9	1	32.8	1	21.5	2
40～44	22.6	2	27.1	1	13.3	2
45～49	16.3	2	19.7	2	9.2	2
50～54	11.7	3	13.8	3	7.0	4
55～59	8.8	4	10.1	3	5.7	4
60～64	5.2	4	5.7	4	4.3	4
65～69	3.0	6	3.0	6	3.0	6
70～74	1.6	7	1.4	8	1.8	7
75～79	0.9	12	0.8	12	1.0	11
80～84	0.6	14	0.6	14	0.6	16
85～89	0.4	17	0.5	16	0.4	20
90～	0.2	21	0.3	19	0.2	27
(再)65歳～	0.9	12	1.1	12	0.8	15

注：1) 割合はそれぞれ年齢階級別総死亡数を100として算出した。
2) 「総数」には5～9歳及び年齢不詳を含む。

4. 死亡曜日・時間別にみた自殺

(1) 死亡曜日別にみた自殺

平成 15 年の 1 日平均自殺死亡数を死亡曜日別にみると、「月曜日」は男 80.7 人、女 27.3 人と最も多くなっており、「土曜日」は男 53.5 人、女 21.2 人と少なくなっている。

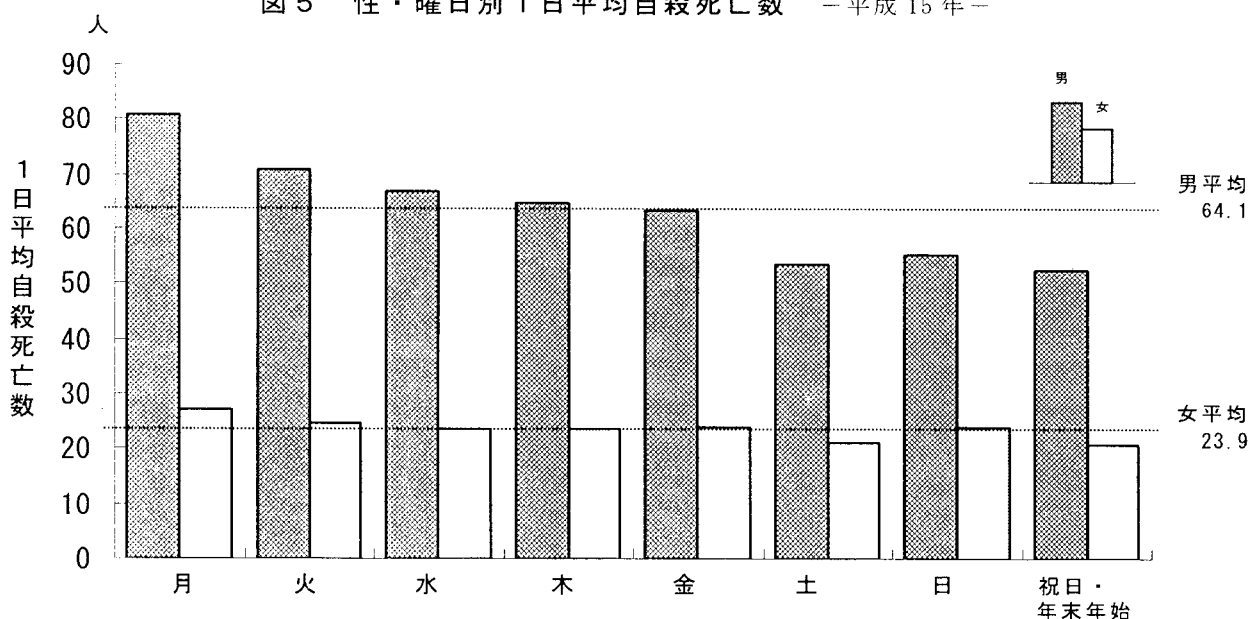
また、「祝日・年末年始」の休日を見ると、1 日平均自殺死亡数が男 52.6 人、女 20.7 人と最も少なくなっている。(表 5、図 5)

表 5 性・曜日別自殺死亡数・1 日平均自殺死亡数 -平成 15 年-

曜 日	日数	男		女	
		死亡数	1 日平均自殺死亡数	死亡数	1 日平均自殺死亡数
総 数	365	23 396	64.1	8 713	23.9
月	44	3 549	80.7	1 199	27.3
火	47	3 326	70.8	1 166	24.8
水	51	3 425	67.2	1 210	23.7
木	51	3 316	65.0	1 213	23.8
金	50	3 183	63.7	1 208	24.2
土	51	2 728	53.5	1 083	21.2
日	50	2 764	55.3	1 199	24.0
(別掲) 祝日・年末年始*	21	1 105	52.6	435	20.7

* 「年末年始」は12月29日～1月3日として算出した。

図 5 性・曜日別 1 日平均自殺死亡数 -平成 15 年-



(2) 死亡時間別にみた自殺

平成15年の自殺死亡数を、死亡時間が確認できるものについて死亡時間別にみると、男は「0時台」「5時台～6時台」が多くなっており、女は「5時台～6時台」「10時台～12時台」が多くなっている。一方、男女ともに「1時台～2時台」「7時台～9時台」「19時台～21時台」は比較的少なくなっている。

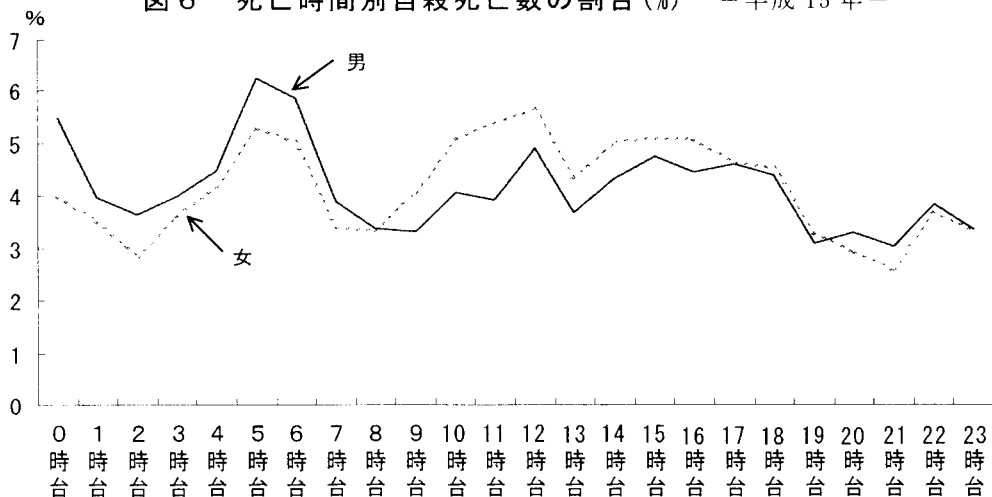
なお、死亡時間「不詳」は男で総数の約2割、女で約1割となっている。
(表6、図6)

表6 死亡時間別自殺死亡数・構成割合 —平成15年—

	死亡数		構成割合(%)	
	男	女	男	女
総数	23 396	8 713		
(不詳を除く)	(19 074)	(7 883)	(100.0)	(100.0)
夜 0時台	1 044	316	5.5	4.0
夜 1時台	761	278	4.0	3.5
明け 2時台	696	225	3.6	2.9
前 3時台	766	285	4.0	3.6
前 4時台	854	331	4.5	4.2
前 5時台	1 190	418	6.2	5.3
午前 6時台	1 118	399	5.9	5.1
午前 7時台	742	267	3.9	3.4
午前 8時台	644	264	3.4	3.3
午前 9時台	631	320	3.3	4.1
午前 10時台	776	402	4.1	5.1
午前 11時台	747	424	3.9	5.4
午後 12時台	934	445	4.9	5.6
午後 13時台	704	341	3.7	4.3
午後 14時台	825	395	4.3	5.0
午後 15時台	910	400	4.8	5.1
午後 16時台	853	401	4.5	5.1
午後 17時台	879	365	4.6	4.6
夜 18時台	841	358	4.4	4.5
夜 19時台	589	260	3.1	3.3
夜 20時台	626	232	3.3	2.9
夜 21時台	576	203	3.0	2.6
夜 22時台	730	293	3.8	3.7
夜 23時台	638	261	3.3	3.3
不詳	4 322	830		

注：割合は不詳を除いた死亡数を100として算出した。

図6 死亡時間別自殺死亡数の割合(%) —平成15年—



5. 月別にみた自殺

1日平均自殺死亡数を月別にみると、多くの年で4・5月がピークになっており、特に平成15年は4月103.2人、5月100.3人と1日平均の自殺死亡数が100人を超えている。

一方、平成12年は6月がピークになっており、他の年と異なっている。

(図7、表7)

図7 死亡月別1日平均自殺死亡数の年次推移

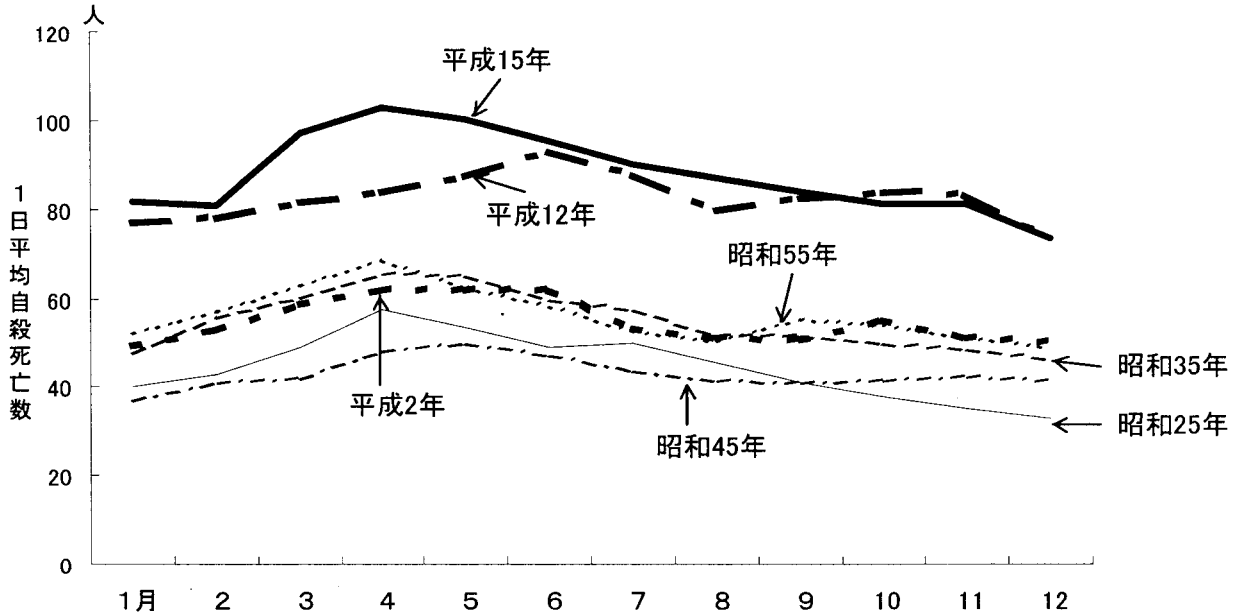


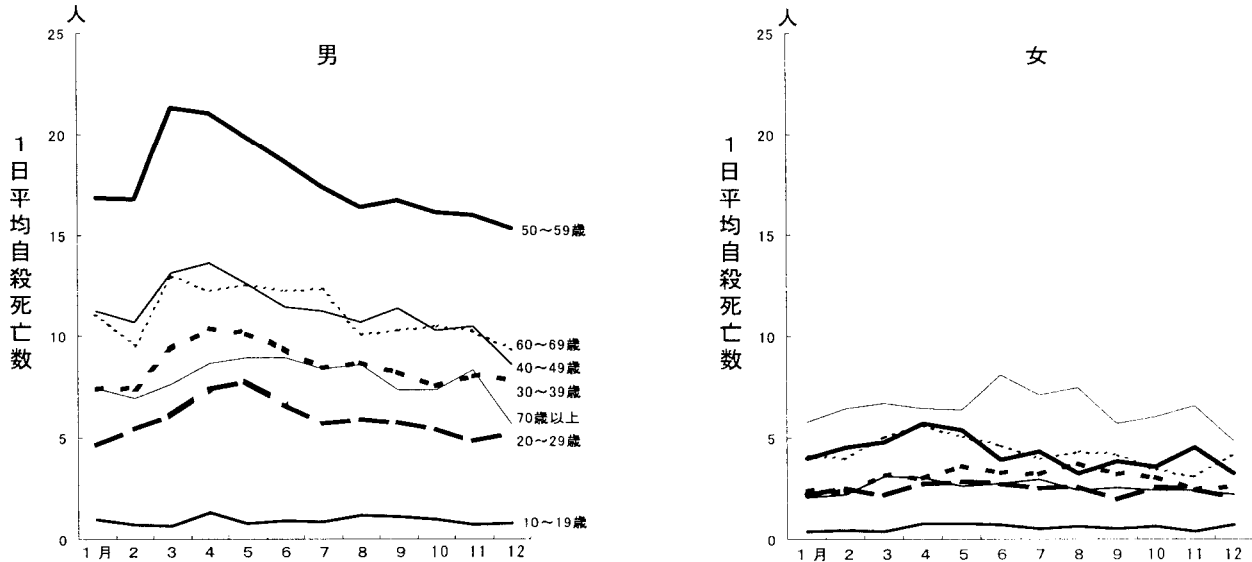
表7 死亡月別1日平均自殺死亡数の年次推移

月	昭和25年 (1950)	35 ('60)	45 ('70)	55 ('80)	平成2年 ('90)	12 (2000)	15 ('03)
年間	44.7	55.0	43.1	56.1	55.0	82.7	88.0
1月	40.4	47.7	37.1	52.3	49.3	77.0	81.5
2	42.8	55.8	41.2	56.9	53.2	78.1	80.8
3	49.1	60.0	42.1	62.9	58.8	81.8	97.4
4	57.8	65.4	48.4	68.7	62.0	83.9	103.2
5	53.5	65.3	49.9	62.3	62.0	87.3	100.3
6	49.0	59.9	47.1	58.3	62.2	93.1	95.5
7	50.1	57.5	43.7	52.6	53.7	87.7	90.2
8	45.7	51.8	41.5	50.6	51.2	79.9	86.9
9	40.9	51.6	41.1	55.4	50.9	82.4	83.8
10	37.8	50.1	41.5	53.8	55.4	83.8	81.0
11	35.3	48.8	42.2	51.1	51.4	83.2	81.2
12	33.2	46.5	41.4	49.1	50.3	73.7	73.5

また、平成15年について1日平均自殺死亡数を性・年齢階級(10歳階級)別にみると、男では「70歳以上」を除き3月～5月がピークとなっている。

一方、女では男ほど3月～5月の山が見られず、「70歳以上」では6月～8月がピークとなっている。(図8)

図8 性・年齢階級(10歳階級)・死亡月別1日平均自殺死亡数 —平成15年—



6. 配偶関係別にみた自殺

性・年齢階級(10歳階級)・配偶関係別に自殺死亡率(人口10万対)をみると、男では平成7年・12年ともに「離別」がすべての年齢階級で高く、「有配偶」がすべての年齢階級で低くなっている。

一方、女は、平成7年・12年ともに「有配偶」が低くなっているが、10歳以上については、「未婚」が「離別」と同程度となっている。(表8)

表8 性・年齢(10歳階級)・配偶関係別自殺死亡数・自殺死亡率(人口10万対)の年次比較

	男						女					
	総数 ¹⁾	20~29歳	30~39	40~49	50~59	60歳以上	総数 ¹⁾	20~29歳	30~39	40~49	50~59	60歳以上
平成7年	死 亡 数											
総数 ²⁾	14 188	1 638	1 667	2 825	3 428	4 186	7 166	679	654	960	1 339	3 378
有配偶	7 127	122	530	1 516	2 248	2 711	3 223	99	366	612	943	1 202
未婚	4 176	1 463	932	812	460	222	1 304	552	203	154	111	149
死別	1 092	1	6	49	129	907	2 057	5	2	35	145	1 870
離別	1 515	45	186	423	553	308	533	22	82	153	133	143
	死 亡 率											
総数 ²⁾	28.0	17.5	21.0	28.9	41.4	37.8	13.3	7.5	8.4	9.9	15.8	23.2
有配偶	22.4	7.2	10.0	19.0	30.9	28.5	10.2	3.7	5.9	7.4	13.5	16.0
未婚	25.7	19.4	39.1	61.2	99.9	107.5	10.1	8.9	17.6	26.0	30.2	31.1
死別	85.3	88.8	86.2	85.2	30.0	17.7	22.9	31.2
離別	135.8	108.4	116.7	119.7	169.4	131.2	27.1	21.4	27.1	26.3	28.3	28.1
平成12年	死 亡 数											
総数 ²⁾	21 598	2 132	2 591	3 605	6 187	6 504	8 579	939	866	938	1 662	4 013
有配偶	10 919	161	833	1 855	3 759	4 309	3 803	132	426	594	1 068	1 580
未婚	5 946	1 863	1 354	1 043	961	394	1 694	746	300	166	172	176
死別	1 414	4	16	48	240	1 106	2 201	7	15	25	149	2 005
離別	2 930	97	372	639	1 178	643	830	54	121	149	264	241
	死 亡 率											
総数 ²⁾	41.6	23.4	30.9	43.4	65.5	50.4	15.6	10.7	10.6	11.4	17.3	24.0
有配偶	34.0	9.3	16.1	28.8	47.5	39.6	11.9	5.3	7.1	8.6	13.6	17.9
未婚	36.1	25.4	46.5	76.6	123.2	130.4	13.0	12.2	17.9	27.5	37.1	30.9
死別	101.6	113.1	155.2	93.5	30.6	17.2	25.9	31.1
離別	209.0	167.0	177.9	193.0	260.0	183.7	34.6	38.6	30.2	27.3	40.0	37.0

注：1) 総数には、15～19歳及び年齢不詳を含む。

2) 総数には、配偶関係不詳を含む。

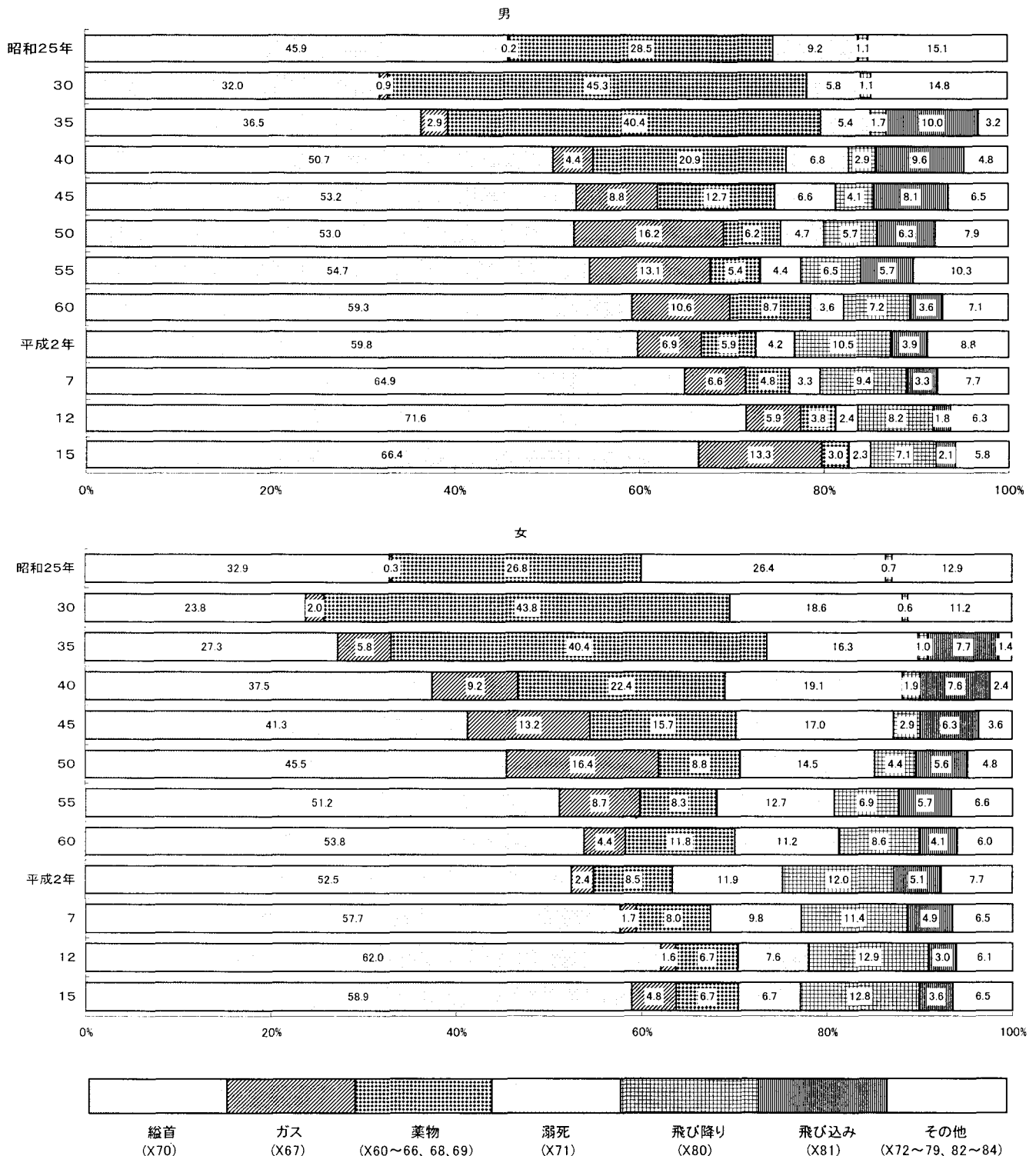
7. 手段別にみた自殺

(1) 年次比較

手段別の自殺死亡数の割合をみると、男は昭和28年～35年、女は昭和27年～37年において「薬物」が最も多く、その後激減している。

その他の年次は「縊首(いしゅ)」が最も多く、男女ともに増加傾向となっている。(図9、統計表第3表)

図9 性・手段別自殺死亡数構成割合の年次比較



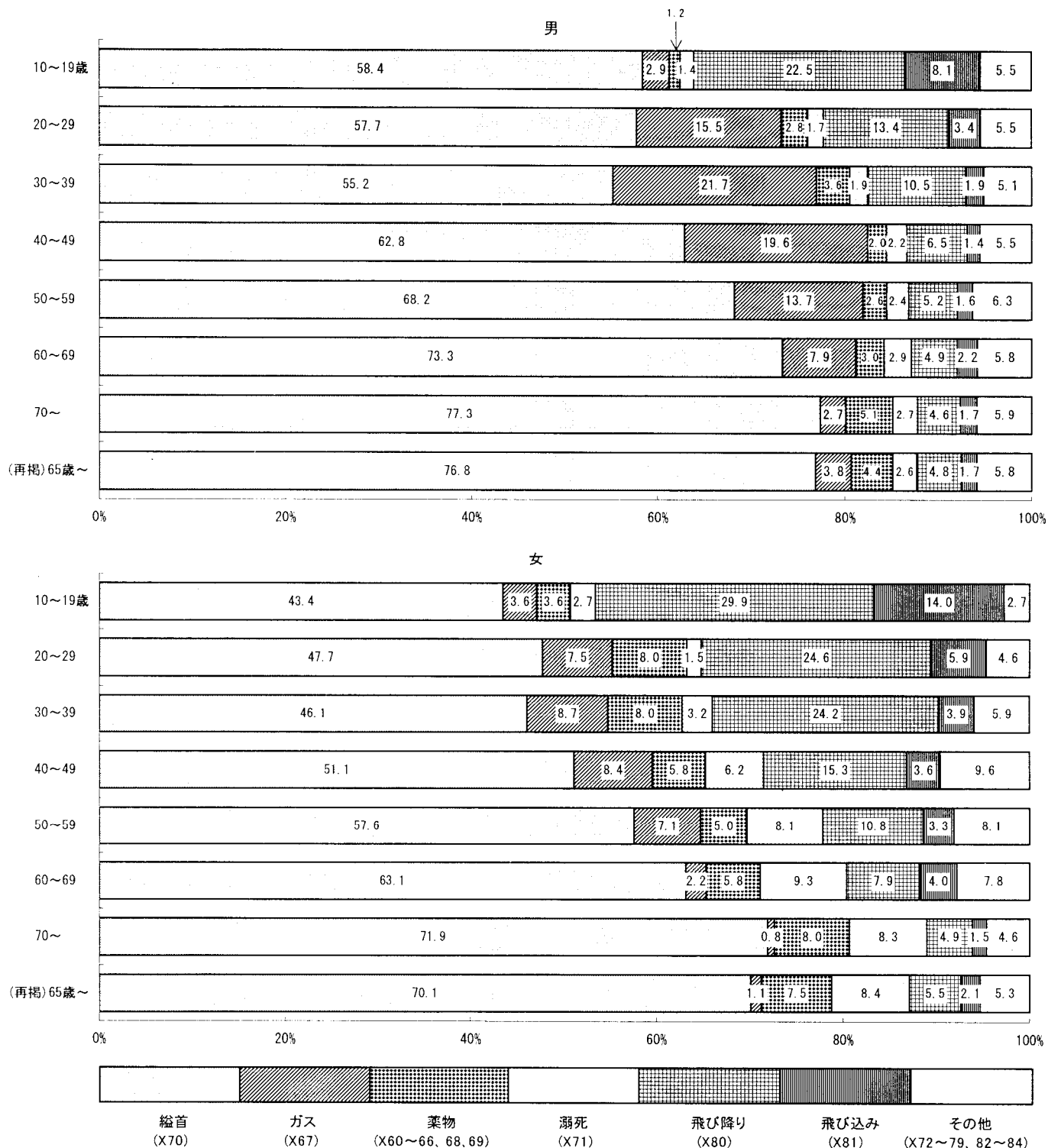
注：1) 昭和25年・30年・平成7年・12年・15年の「自傷の続発・後遺症」は自殺の合計には含まない。
 2) 昭和25年、30年の「飛び込み」は区分されず、「その他」に含まれる。
 3) ()は「第10回修正疾病及び関連保健問題の国際統計分類(以下「ICD-10」という。)基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

(2) 年齢階級別

平成 15 年における手段別の自殺死亡数の割合を性・年齢階級(10 歳階級)別にみると、男女ともすべての年齢階級で「縊首」による割合が最も多く、60 歳以上の男、70 歳以上の女では 70% を超えている。

次いで、男で 2 番目に多い「ガス」をみると、特に 30 代・40 代では 20% 前後となっている。一方、女では 2 番目に多い「飛び降り」をみると、10 歳代・20 歳代・30 歳代では 25% 前後となっている。(図 10)

図 10 性・年齢(10 歳階級)・手段別自殺死亡数構成割合 —平成 15 年—



注：() は「ICD-10 基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

8. 都道府県別にみた自殺

(1) 自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率（人口10万対）

平成15年における都道府県別の自殺死亡率をみると、男は30.3～66.1、女は7.4～25.2の間に分布しており、標準偏差の単純平均に対する割合は、男20%、女21%と同程度となっている。

また、都道府県別の年齢調整死亡率をみると、最高は男女とも秋田、最低は男が神奈川県、女が佐賀となっている。（表9）

表9 性・都道府県別自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率（人口10万対）

—平成15年—

都道府県	死亡数			死亡率(人口10万対)			年齢調整死亡率(人口10万対)	
	総数	男	女	総数	男	女	男	女
全 国	32 109	23 396	8 713	25.5	38.0	13.5	32.8	10.8
北 海 道	1 531	1 095	436	27.1	40.7	14.8	35.5	11.9
青 森 県	576	446	130	39.5	64.4	17.0	55.9	11.6
岩 手 県	527	395	132	37.8	59.0	18.2	52.7	11.1
宮 城 県	621	469	152	26.3	40.7	12.6	37.1	10.0
秋 田 県	519	365	154	44.6	66.1	25.2	56.0	16.2
山 形 県	370	273	97	30.2	46.1	15.3	40.1	11.4
福 島 県	586	447	139	27.9	43.6	12.9	39.3	10.1
茨 城 県	748	554	194	25.3	37.7	13.1	33.9	10.3
栃 木 県	523	360	163	26.3	36.5	16.3	31.7	12.6
群 馬 県	562	397	165	28.1	40.3	16.3	34.9	12.3
埼 千 東 神 奈 新	1 563	1 104	459	22.5	31.5	13.3	27.7	11.1
玉 葉 京 川 湯	1 326	970	356	22.3	32.5	12.0	28.1	10.2
2 743	1 933	810	22.7	32.2	13.4	27.8	11.3	
1 791	1 313	478	20.9	30.3	11.3	26.5	9.6	
833	590	243	34.0	49.7	19.3	41.9	12.2	
富 石 福 山 山 長	356	254	102	32.1	47.6	17.7	38.9	12.6
303	222	81	25.8	39.1	13.4	34.4	10.9	
246	185	61	30.1	46.6	14.5	39.6	11.1	
223	171	52	25.5	39.9	11.7	35.6	9.8	
576	403	173	26.4	37.9	15.5	33.1	11.2	
岐 静 愛 三 滋	546	383	163	26.3	38.0	15.2	31.8	11.9
786	590	196	21.1	32.2	10.4	28.4	8.0	
1 566	1 083	483	22.3	30.8	13.8	27.0	11.3	
456	329	127	24.9	37.0	13.4	32.5	9.8	
330	239	91	24.5	36.0	13.3	31.1	10.1	
京 大 兵 奈 和	602	420	182	23.2	33.6	13.5	29.0	10.6
2 186	1 588	598	25.3	37.7	13.5	32.1	11.3	
1 280	927	353	23.3	35.1	12.3	30.4	10.5	
296	213	83	20.7	31.2	11.1	27.7	8.9	
271	184	87	25.8	37.0	15.7	32.2	11.8	
鳥 島 岡 広 山	145	109	36	23.9	37.5	11.4	32.1	7.8
237	172	65	31.6	48.0	16.6	41.0	10.7	
397	290	107	20.5	31.2	10.6	28.5	8.6	
650	475	175	22.8	34.4	11.9	30.0	9.4	
412	299	113	27.5	42.2	14.3	35.0	11.4	
徳 香 愛 高 福	165	118	47	20.3	30.5	11.0	26.9	8.5
226	172	54	22.3	35.3	10.2	31.1	7.9	
394	287	107	26.7	41.2	13.7	37.1	11.7	
236	175	61	29.4	46.2	14.4	40.7	11.0	
1 352	1 016	336	26.9	42.6	12.8	38.2	10.6	
佐 長 熊 大 宮	216	182	34	24.9	44.3	7.4	41.6	6.1
449	337	112	30.0	48.0	14.1	43.8	11.2	
498	367	131	26.9	42.0	13.4	38.4	10.2	
309	221	88	25.5	38.7	13.8	34.4	10.9	
369	278	91	31.8	50.8	14.8	45.3	10.6	
鹿 沖 児 島 縄	482	378	104	27.2	45.5	11.1	40.0	8.4
350	276	74	26.1	41.9	10.8	40.5	10.1	
標 準 偏 差 (単純平均 ²⁾ に 対する割合)				4.9 (18%)	8.1 (20%)	2.8 (21%)	7.1 (20%)	1.6 (15%)

注：1) 年齢調整死亡率の基準人口は、昭和60年モデル人口である。

2) 単純平均とは、47都道府県の値を単純に平均したものである。

(2) 手段別自殺死亡数割合

平成15年における都道府県別の手段別の自殺死亡数割合をみると、すべての都道府県で「縊首」が最も多くなっているが、その割合は男女で異なっており、男では最も多い島根(77.3%)から最も少ない群馬(54.7%)まで20%以上の差があり、女では最も多い佐賀(82.4%)から最も少ない沖縄(44.6%)まで40%近い差がある。

また、沖縄・福井では男女の差が20%以上となっている。

市郡別に手段別の自殺死亡数の割合をみると、いずれも「縊首」が多くなっているが、男女ともに14大都市では「飛び降り」が多くなっており、郡部では「縊首」「薬物」が多くなっている。(表10)

表10 性・都道府県一市郡別にみた手段別自殺死亡数構成割合 ー平成15年ー

都道府県	男								女							
	総数	縊首(X70)	ガス(X67)	薬物(X60~X66、X68、X69)	溺死(X71)	飛び降り(X80)	飛び込み(X81)	その他(X72~X79、X82~X84)	総数	縊首(X70)	ガス(X67)	薬物(X60~X66、X68、X69)	溺死(X71)	飛び降り(X80)	飛び込み(X81)	その他(X72~X79、X82~X84)
北海道	100.0	70.2	15.7	1.5	2.3	4.1	0.9	5.3	100.0	67.2	5.5	3.4	5.5	7.1	2.1	9.2
青森	100.0	73.1	16.8	2.9	2.0	1.3	—	3.8	100.0	66.2	5.4	7.7	5.4	3.1	—	12.3
岩手	100.0	65.1	20.8	2.8	3.0	4.1	0.5	3.8	100.0	72.0	2.3	6.8	9.8	3.8	0.8	4.5
宮城	100.0	61.2	22.8	2.1	3.2	6.0	0.9	3.8	100.0	61.2	3.3	2.6	13.2	13.2	2.0	4.6
秋田	100.0	71.5	17.8	1.6	1.4	2.5	0.8	4.4	100.0	68.2	8.4	3.9	6.5	1.9	1.9	9.1
山形	100.0	71.1	16.5	2.2	1.5	2.6	1.1	5.1	100.0	70.1	7.2	3.1	7.2	4.1	1.0	7.2
福島	100.0	61.3	20.4	2.5	2.5	3.4	0.9	9.2	100.0	51.1	10.8	13.7	7.9	5.8	5.0	5.8
茨城	100.0	62.3	15.5	5.4	3.8	4.3	1.1	7.6	100.0	55.2	5.2	10.3	7.2	7.7	3.6	10.8
栃木	100.0	58.6	19.2	5.6	0.6	6.7	1.9	7.5	100.0	57.1	6.7	12.3	3.7	8.0	4.3	8.0
群馬	100.0	54.7	19.4	7.3	1.8	7.1	2.0	7.8	100.0	61.8	5.5	12.1	9.7	7.9	0.6	2.4
埼玉県	100.0	61.1	12.6	4.9	2.4	10.6	2.5	5.9	100.0	54.2	4.6	9.2	7.2	12.4	6.3	6.1
千葉県	100.0	64.5	13.6	3.3	2.0	6.2	3.1	7.3	100.0	61.2	4.5	4.8	3.7	15.7	2.8	7.3
東京都	100.0	61.9	6.9	2.7	2.9	15.0	4.6	6.0	100.0	47.7	2.0	6.9	4.8	26.5	6.0	6.0
神奈川県	100.0	64.1	10.1	2.4	1.6	11.5	3.2	7.1	100.0	55.0	2.7	4.4	4.0	20.3	6.1	7.5
新潟県	100.0	71.2	13.4	4.2	2.5	2.5	0.5	5.6	100.0	63.8	2.9	7.4	9.9	4.5	2.5	9.1
富山県	100.0	74.8	9.8	2.0	3.5	3.1	2.0	4.7	100.0	63.7	3.9	5.9	14.7	2.9	2.0	6.9
石川県	100.0	68.5	15.3	4.1	1.8	4.1	1.4	5.0	100.0	60.5	6.2	4.9	7.4	13.6	1.2	6.2
福井県	100.0	73.5	15.1	3.2	2.7	2.2	0.5	2.7	100.0	49.2	11.5	4.9	13.1	8.2	3.3	9.8
山梨県	100.0	61.4	15.2	5.8	1.2	5.8	1.8	8.8	100.0	59.6	7.7	3.8	17.3	7.7	—	3.8
長野県	100.0	65.3	16.9	3.0	2.7	5.7	2.2	4.2	100.0	56.1	8.7	5.2	9.8	8.7	4.0	7.5
岐阜県	100.0	70.0	14.6	1.8	1.8	6.3	0.5	5.0	100.0	57.1	8.6	10.4	2.5	11.7	2.5	7.4
静岡県	100.0	66.6	13.9	4.6	1.9	5.4	1.5	6.1	100.0	55.6	5.1	11.7	4.6	9.2	6.6	7.1
愛知県	100.0	67.7	11.8	1.6	2.3	7.8	1.7	7.2	100.0	58.4	5.6	4.6	7.5	13.9	4.3	5.8
三重県	100.0	69.3	14.3	1.8	3.0	6.1	1.2	4.3	100.0	65.4	3.9	9.4	7.1	3.9	3.1	7.1
滋賀県	100.0	71.1	8.8	1.3	2.9	5.0	0.8	10.0	100.0	54.9	9.9	4.4	11.0	11.0	6.6	2.2
京都府	100.0	64.5	12.6	3.6	1.7	8.3	4.3	5.0	100.0	58.8	4.4	5.5	9.2	17.6	3.3	2.2
大阪府	100.0	64.9	9.4	2.0	1.8	13.2	3.4	5.4	100.0	53.2	3.8	5.9	5.7	20.4	4.7	6.4
兵庫県	100.0	64.1	12.1	1.6	2.2	10.2	3.2	6.6	100.0	56.4	4.0	4.8	5.7	20.7	4.2	4.2
奈良県	100.0	70.4	17.4	1.9	—	3.3	0.9	6.1	100.0	55.4	2.4	9.6	7.2	12.0	10.8	2.4
和歌山県	100.0	74.5	12.5	2.7	0.5	3.3	2.2	4.3	100.0	75.9	3.4	3.4	5.7	8.0	1.1	2.3
鳥取県	100.0	67.0	19.3	4.6	0.9	5.5	0.9	1.8	100.0	75.0	2.8	2.8	11.1	5.6	—	2.8
島根県	100.0	77.3	10.5	2.3	4.1	2.9	—	2.9	100.0	80.0	1.5	4.6	7.7	3.1	—	3.1
岡山県	100.0	70.0	16.9	2.4	1.7	1.7	0.7	6.6	100.0	69.2	4.7	5.6	6.5	5.6	0.9	7.5
広島県	100.0	72.2	14.9	0.4	1.9	5.1	1.1	4.4	100.0	69.1	4.6	3.4	6.3	8.6	1.7	6.3
山口県	100.0	74.9	12.4	1.3	3.3	1.7	1.3	5.0	100.0	71.7	3.5	5.3	8.8	5.3	1.8	3.5
徳島県	100.0	66.1	11.0	4.2	6.8	2.5	2.5	6.8	100.0	59.6	8.5	14.9	10.6	2.1	2.1	2.1
香川県	100.0	69.8	12.2	2.9	1.2	8.1	—	5.8	100.0	61.1	—	13.0	16.7	7.4	—	1.9
愛媛県	100.0	65.5	15.3	3.8	3.1	5.9	1.0	5.2	100.0	60.7	6.5	5.6	7.5	14.0	—	5.6
高知県	100.0	65.7	17.7	5.1	1.1	2.9	1.1	6.3	100.0	59.0	6.6	13.1	8.2	3.3	1.6	8.2
福岡県	100.0	65.4	16.1	3.3	3.1	4.7	1.6	5.7	100.0	56.5	8.0	7.1	6.5	13.1	1.8	6.8
佐賀県	100.0	82.4	15.9	5.5	1.6	2.7	0.5	7.1	100.0	82.4	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
長崎県	100.0	73.9	11.3	3.3	3.0	3.0	0.3	5.3	100.0	63.4	4.5	5.4	8.0	6.3	1.8	10.7
熊本県	100.0	65.4	15.5	6.5	1.6	5.7	1.6	3.5	100.0	58.8	9.2	9.2	4.6	9.2	3.8	5.3
大分県	100.0	68.8	17.2	1.4	2.7	4.1	1.8	4.1	100.0	58.0	3.4	8.0	8.0	5.7	6.8	10.2
宮崎県	100.0	71.9	13.7	5.8	1.4	2.9	0.7	3.6	100.0	72.5	1.1	9.9	2.2	5.5	1.1	7.7
鹿児島県	100.0	73.3	12.2	5.0	2.4	3.2	—	4.0	100.0	69.2	3.8	10.6	1.9	11.5	—	2.9
沖縄県	100.0	74.6	9.8	2.2	3.6	5.1	—	4.7	100.0	44.6	4.1	8.1	9.5	27.0	—	6.8
(再掲)																
14大都市	100.0	63.6	10.0	2.2	2.6	12.6	3.0	6.0	100.0	52.7	3.6	5.5	5.0	23.4	4.3	5.5
市部	100.0	65.9	14.3	2.9	2.3	6.8	2.0	5.9	100.0	58.5	5.5	6.3	6.9	12.0	4.0	6.8
郡部	100.0	70.1	14.9	3.9	2.1	2.8	0.8	5.3	100.0	65.3	4.5	8.6	7.5	5.5	2.1	6.6

注：()は「ICD-10基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

9. 職業・産業別にみた自殺(平成12年度人口動態職業・産業別統計)

国勢調査実施年度に実施している人口動態職業・産業別統計により平成12年度における自殺死亡率(人口10万対)をみると、「就業者総数」では男32.9、女8.9、「無職」では男70.8、女21.9となっており、特に男の「無職」が高くなっている。

就業者を職業別にみると、男では「農林漁業作業者」「サービス職業従事者」が高くなっている。(表11)

産業別にみると、男女ともに「第1次産業」が高くなっている。(表12)

表11 15歳以上自殺死亡数、死亡率(人口10万対)・職業(大分類)別 —平成12年度—

	男		女	
	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数	死亡率 (人口10万対)
総数	22 048	42.3	8 643	15.7
就業者総数	12 146	32.9	2 260	8.9
A 専門的・技術的職業従事者	1 679	35.6	247	6.7
B 管理的職業従事者	671	42.3	64	*32.3
C 事務従事者	892	19.7	271	3.6
D 販売従事者	1 223	20.3	212	6.2
E サービス職業従事者	988	51.1	302	8.5
F 保安職業従事者	230	24.3	11	*21.6
G 農林漁業作業者	975	54.2	237	17.6
H 運輸・通信従事者	754	35.2	30	*27.9
I 生産工程・労務作業者	2 086	16.2	182	3.4
J 分類不能の職業	2 648	...	704	...
無職	9 902	70.8	6 383	21.9

注: 1) 「J 分類不能の職業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

表12 15歳以上自殺死亡数、死亡率(人口10万対)・産業(大分類)別 —平成12年度—

	男		女	
	死亡数	死亡率 (人口10万対)	死亡数	死亡率 (人口10万対)
総数	22 048	42.3	8 643	15.7
就業者総数	12 146	32.9	2 260	8.9
第1次産業	1 134	63.6	270	19.5
A 農業	961	62.5	251	19.1
B 林業	53	*95.4	3	*26.0
C 漁業	120	63.4	16	*25.2
第2次産業	3 205	24.2	289	5.7
D 鉱業	105	233.5	16	*192.5
E 建設業	1 721	32.4	70	*7.5
F 製造業	1 379	17.5	203	4.9
第3次産業	4 639	21.5	883	4.7
G 電気・ガス・熱供給・水道業	245	81.1	20	*40.3
H 運輸・通信業	829	26.2	47	*6.4
I 卸売・小売業・飲食店	1 229	17.6	246	3.4
J 金融・保険業	129	15.3	23	*2.5
K 不動産業	115	25.4	16	*5.5
L サービス業務	1 616	19.8	461	5.1
M 公務	476	29.2	70	*13.6
N 分類不能の産業	3 168	...	818	...
無業	9 902	70.8	6 383	21.9

注: 1) 「N 分類不能の産業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

職業別に手段をみると、男女とも「縊首」が最も多く、「農林漁業作業員」では「薬物」、「運輸・通信従事者」では「ガス」が多くなっている。(表 13)

表 13 15 歳以上自殺死亡数の性・職業(大分類)別にみた手段別自殺死亡数構成割合
—平成 12 年度—

(単位：%)

	総数	縊首 (X70)	ガス (X67)	薬物 (X60～ X66、 X68、 X69)	溺死 (X71)	飛び降り (X80)	飛び込み (X81)	その他 (X72～ X79、 X82～ X84)
男	100.0	72.6	5.7	3.8	2.3	7.9	1.8	5.9
就業者総数	100.0	72.7	7.3	3.6	2.3	7.0	1.4	5.7
A 専門的・技術的職業従事者	100.0	75.7	6.1	3.4	2.0	6.6	0.7	5.7
B 管理的職業従事者	100.0	77.2	6.1	3.0	1.2	5.2	1.3	6.0
C 事務従事者	100.0	67.3	7.4	2.5	3.0	11.1	2.5	6.3
D 販売従事者	100.0	72.2	8.5	2.5	1.6	7.1	0.9	7.1
E サービス職業従事者	100.0	73.9	8.1	3.0	1.7	6.2	1.4	5.7
F 保安職業従事者	100.0	73.5	5.2	1.3	1.3	7.0	2.6	9.1
G 農林漁業作業員	100.0	75.3	4.6	12.3	1.7	1.8	—	4.2
H 運輸・通信従事者	100.0	68.3	14.7	2.0	2.9	6.0	1.2	4.9
I 生産工程・労務作業員	100.0	73.0	9.4	3.6	2.1	5.2	1.0	5.7
J 分類不能の職業	100.0	71.3	4.8	2.5	3.1	10.1	2.7	5.4
無職	100.0	72.5	3.7	3.9	2.5	9.0	2.2	6.2
女	100.0	63.1	1.5	6.9	7.0	12.6	2.7	6.2
就業者総数	100.0	59.4	2.8	8.3	5.8	15.0	2.7	5.9
A 専門的・技術的職業従事者	100.0	52.6	2.0	7.7	4.5	22.7	4.0	6.5
B 管理的職業従事者	100.0	56.3	3.1	10.9	7.8	12.5	3.1	6.3
C 事務従事者	100.0	57.2	2.6	6.6	5.9	18.8	3.7	5.2
D 販売従事者	100.0	62.3	5.2	6.1	6.1	11.3	1.9	7.1
E サービス職業従事者	100.0	67.2	3.3	5.3	7.0	11.6	1.7	4.0
F 保安職業従事者	100.0	81.8	—	9.1	—	9.1	—	—
G 農林漁業作業員	100.0	66.2	0.4	21.5	4.2	1.3	1.3	5.1
H 運輸・通信従事者	100.0	66.7	10.0	3.3	3.3	6.7	3.3	6.7
I 生産工程・労務作業員	100.0	65.9	5.5	7.7	3.8	8.8	1.1	7.1
J 分類不能の職業	100.0	54.1	2.1	6.8	6.8	20.2	3.6	6.4
無職	100.0	64.4	1.1	6.4	7.3	11.8	2.6	6.4

注：1) 「J 分類不能の職業」には仕事の有無不詳を含む。

2) () は「ICD-10基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

10. 平成6年～平成15年の状況

(1) 年齢別にみた自殺

性・年齢階級(5歳階級)別自殺死亡率をみると、男では、50歳代をピークとする大きな山が形成されており、20歳代～60歳代が平成6年～平成9年と平成10年以降の大きく2層に分かれている。また、30歳代～40歳代では平成15年においてやや高くなっている。

一方、女は各年ともほぼ同様で、高齢になるにしたがって高くなっている。
(図11、表14)

図11 性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率の年次比較

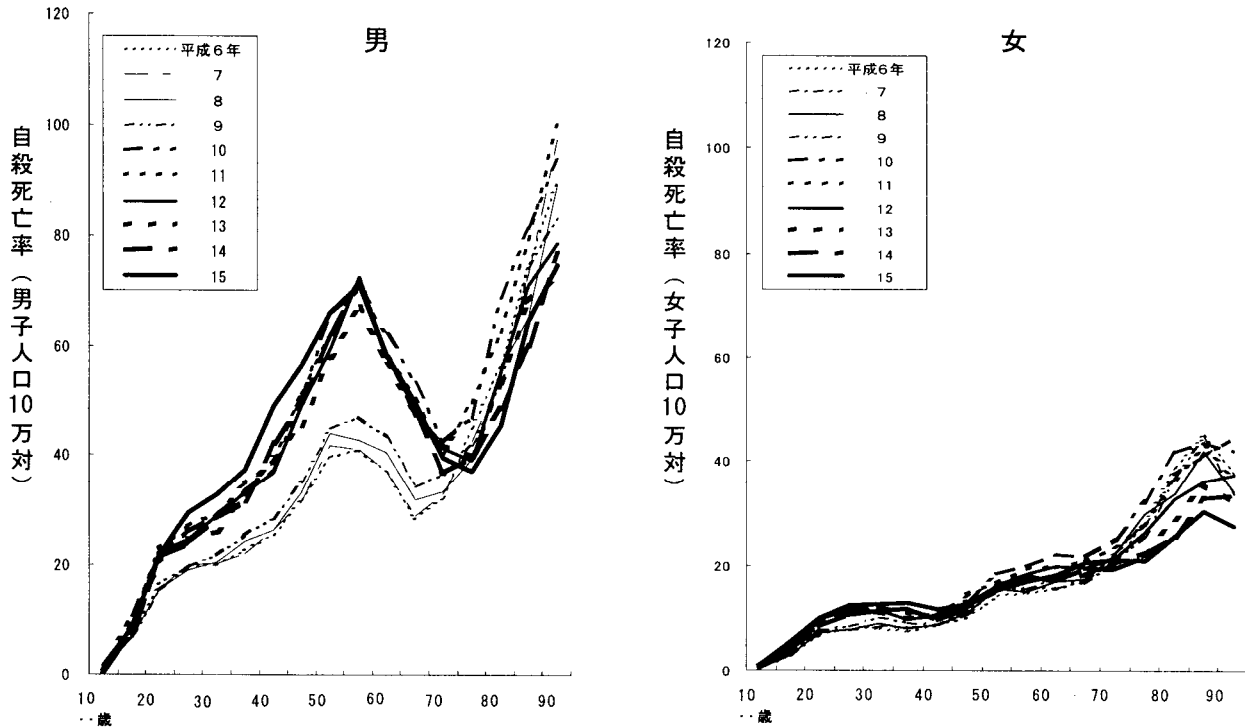


表14 性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率(人口10万対)の年次比較

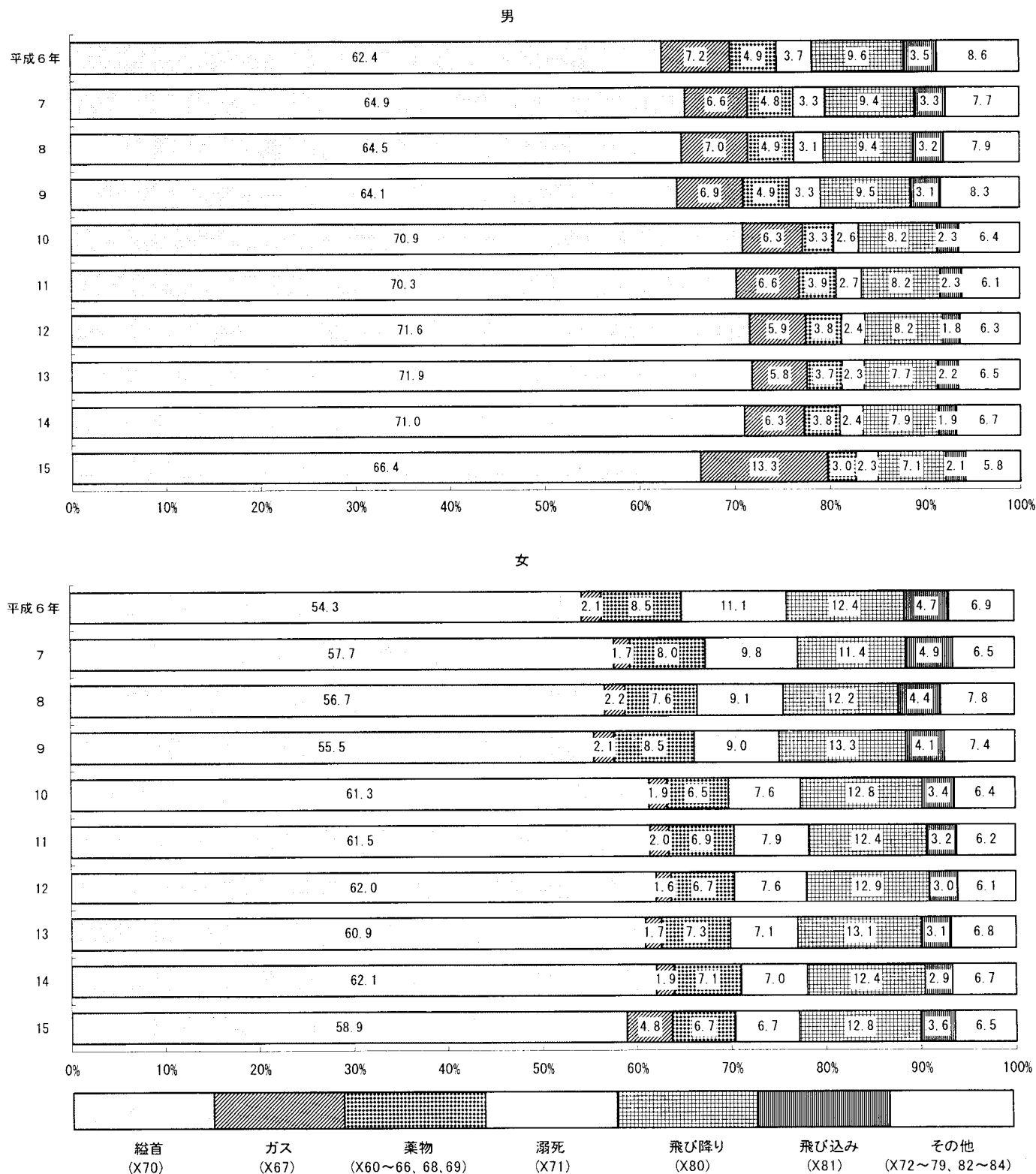
年齢階級	男										女									
	平成6年(1994)	7(95)	8(96)	9(97)	10(98)	11(99)	12(2000)	13(01)	14(02)	15(03)	平成6年(1994)	7(95)	8(96)	9(97)	10(98)	11(99)	12(2000)	13(01)	14(02)	15(03)
総数	23.1	23.4	24.3	26.0	36.5	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	10.9	11.3	11.5	11.9	14.7	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5
10～14歳	1.4	1.1	1.1	0.9	1.8	1.3	1.7	1.2	0.8	1.0	0.5	0.6	0.6	0.5	0.8	0.9	0.5	0.7	0.4	1.1
15～19	7.1	6.6	6.7	6.9	10.8	9.3	8.8	8.4	7.6	8.8	3.0	3.3	3.0	2.8	4.8	4.8	3.8	4.7	3.9	5.6
20～24	16.3	15.3	15.3	15.1	21.9	22.8	22.0	20.1	21.3	21.5	6.9	7.4	7.4	7.7	9.6	9.4	9.7	9.1	8.6	9.9
25～29	19.7	20.0	19.0	19.6	25.8	26.9	24.4	24.6	23.7	29.2	8.6	7.7	7.8	8.6	11.7	10.7	11.5	11.0	10.6	12.4
30～34	19.8	20.2	20.4	21.6	28.8	29.4	28.8	25.9	28.2	32.9	8.0	8.6	9.0	10.1	12.2	12.5	11.3	11.1	11.4	12.6
35～39	22.7	21.9	24.0	25.2	33.3	34.9	33.0	32.8	31.5	37.2	7.5	8.2	8.0	9.2	11.2	10.9	9.8	9.9	11.8	12.8
40～44	25.3	26.0	26.0	28.4	37.5	38.9	36.8	39.4	42.3	49.0	8.8	8.8	8.7	8.7	10.5	10.2	10.5	10.6	9.8	11.6
45～49	31.7	31.4	33.1	35.0	50.4	51.4	49.0	45.5	49.6	56.3	9.9	10.8	11.0	11.7	13.4	14.5	12.2	12.4	11.9	12.6
50～54	39.8	41.7	44.0	45.0	65.8	62.1	59.5	57.9	62.3	66.0	14.3	15.8	15.5	16.1	18.5	16.7	16.3	15.3	16.2	15.3
55～59	40.9	41.1	42.7	47.0	70.2	72.6	72.5	67.1	71.0	71.1	14.7	15.6	15.1	15.8	19.9	19.4	18.4	18.2	18.1	17.1
60～64	36.8	37.1	40.6	43.4	62.1	57.9	58.2	56.7	57.9	58.4	15.5	15.7	16.9	17.4	22.2	19.6	19.9	17.8	17.2	18.2
65～69	28.2	28.9	31.9	34.4	53.3	50.4	48.1	47.8	47.4	49.4	17.5	17.0	17.5	16.8	21.8	20.9	19.7	18.4	19.7	20.7
70～74	32.2	32.7	33.3	36.4	42.4	40.6	41.2	41.9	36.8	39.5	20.9	22.5	22.0	20.9	25.0	23.2	21.4	20.6	19.4	21.1
75～79	45.2	42.5	39.3	42.1	46.9	49.8	39.1	40.0	39.8	36.9	28.1	28.0	29.9	25.6	32.4	27.9	26.2	22.6	21.8	20.9
80～84	56.8	54.4	56.0	53.4	68.9	62.5	55.4	53.5	48.7	45.5	39.2	37.6	33.7	37.2	41.8	36.9	32.8	28.8	25.4	25.5
85～89	75.2	73.1	65.3	74.5	81.4	79.6	71.1	68.1	60.0	64.5	45.2	41.0	42.1	44.6	43.7	43.1	36.2	35.8	33.0	30.3
90～	90.2	97.5	89.4	83.6	93.9	100.0	78.8	72.8	77.1	74.8	37.9	44.6	34.3	33.8	42.1	36.9	37.4	32.4	33.6	27.4

注:「総数」には5～9歳及び年齢不詳を含む。

(2) 手段別にみた自殺

手段別の自殺死亡数の割合を年次別にみると、平成10年以降、男は70%台、女は60%台で推移していた「縊首」が、平成15年では減少し、「ガス」が急増している。
(図12)

図12 手段別自殺死亡数構成割合の年次比較



注：() は「ICD-10 基本分類番号」である。(P26「自殺の分類及び内容」を参照)

11. 諸外国の自殺死亡率

諸外国の自殺死亡率(人口10万対)をみると、男では、高い国は「ロシア」70.6、「ハンガリー」51.5、「日本」36.5となっており、低い国は、「イタリア」11.1、「イギリス」11.8、「アメリカ」17.6となっている。

女では、高い国は「ハンガリー」15.4、「日本」14.1、「ロシア」11.9となっており、低い国は、「イギリス」3.3、「イタリア」3.4、「アメリカ」4.1となっている。

これを年齢階級別にみると、男では、「日本」は「55～64歳」が最も高くなっているのに対し、「日本」より高率な「ロシア」は「45～54歳」が最も高く、「ハンガリー」は「75歳以上」が最も高くなっている。なお、「ロシア」「ハンガリー」は全年齢階級で「日本」を上回っている。

女では、「ロシア」「日本」は年齢階級が高くなるにしたがって高率となる傾向となっているのに対し、「ハンガリー」は「45～54歳」で山を形成している。

(図13、表15、図14)

図13 性・年齢階級(10歳階級)別自殺死亡率(人口10万対)の国際比較

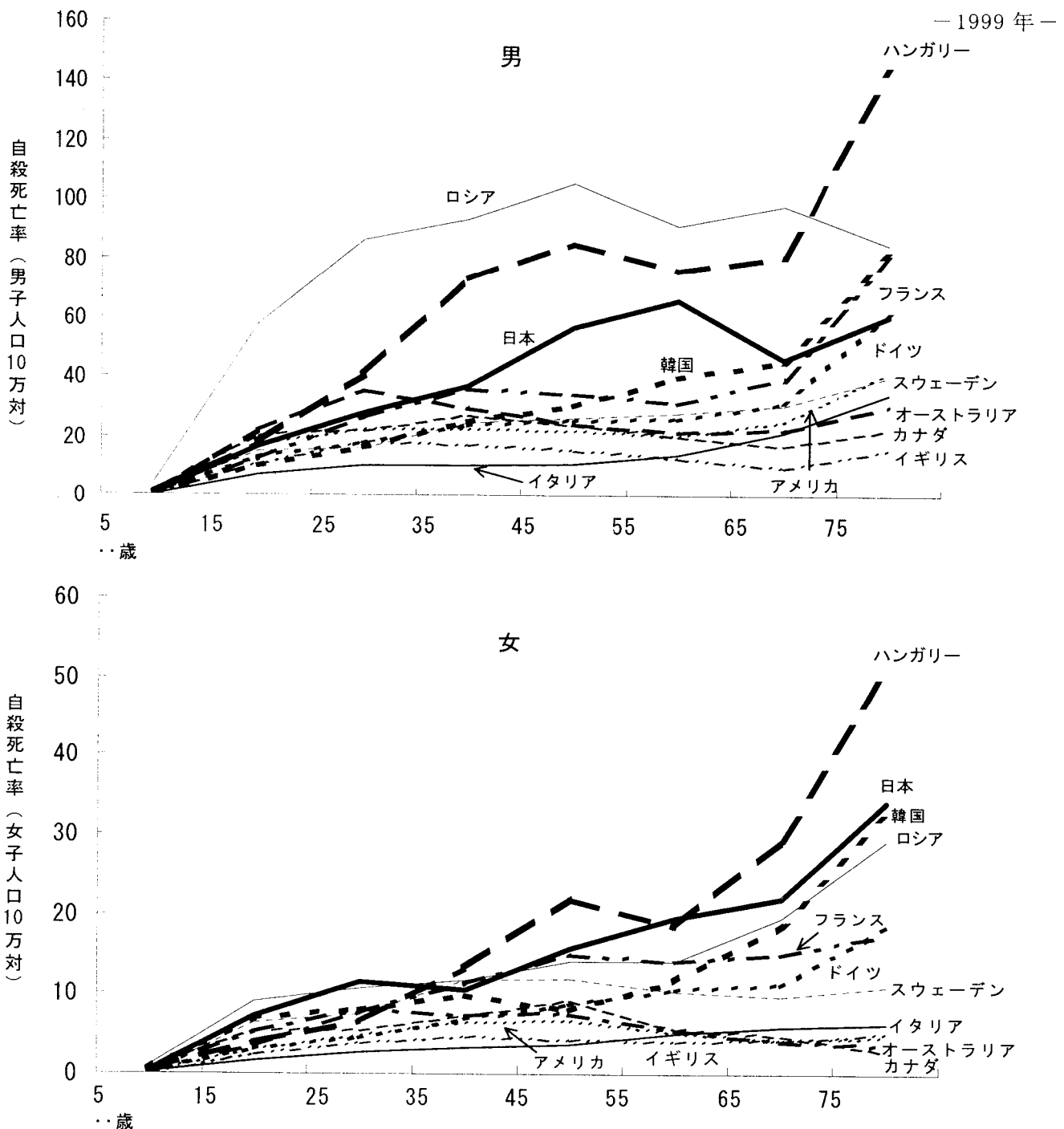
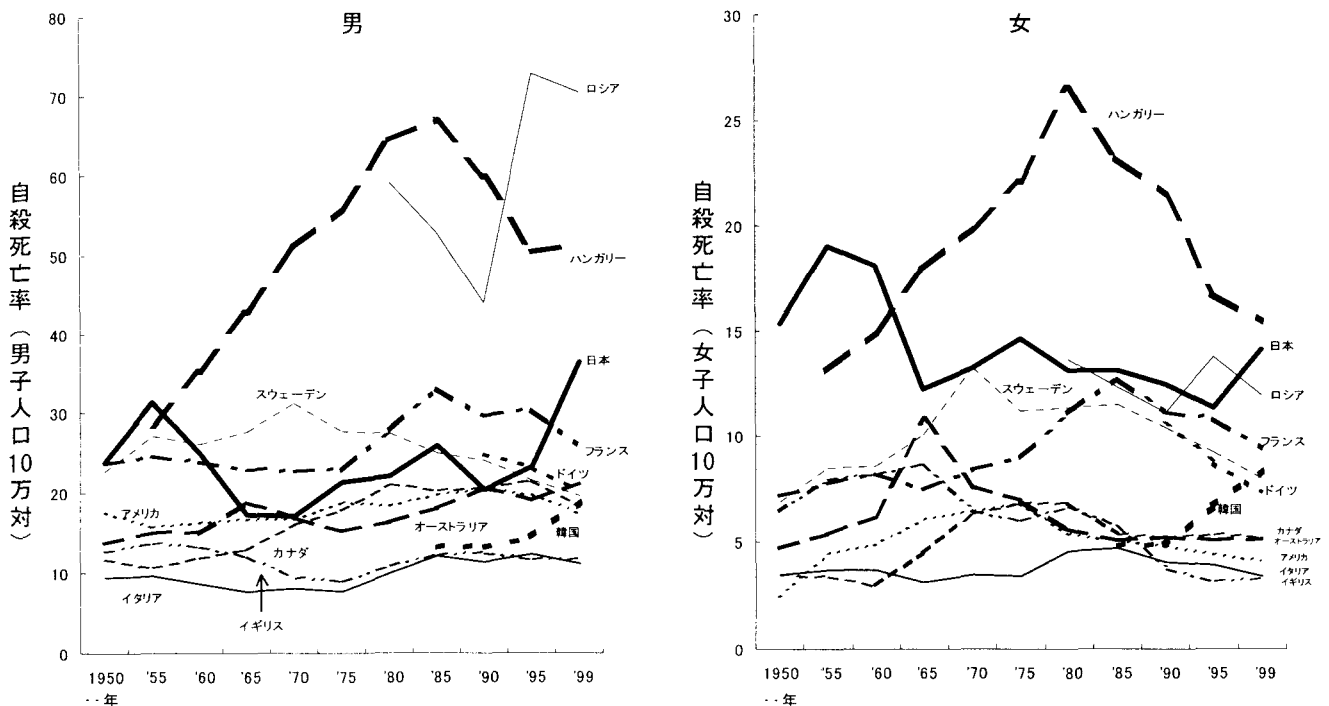


表 15 性・年齢（10歳階級）別自殺死亡率（人口10万対）の国際比較 -1999年-

年 齢	日 本	韓 国	オースト ラリア	アメリカ	カナダ	フランス	ドイツ	イタリア	イギリス	ハンガ リー	スウェ ーデン	ロシア
総 数												
総 数	25.0	13.6	13.1	10.7	11.7	17.5	13.6	7.1	7.5	32.6	13.8	39.4
5~14歳	0.6	0.4	0.6	0.6	1.1	0.4	0.4	0.1	0.1	0.9	0.3	2.6
15~24	12.0	8.7	13.9	10.3	13.0	7.9	8.0	4.3	6.7	10.9	10.7	33.7
25~34	19.9	12.3	21.8	13.4	13.7	16.9	11.2	6.5	11.1	23.8	11.9	49.2
35~44	23.8	17.7	18.4	14.4	17.4	23.4	15.3	6.8	11.1	43.1	18.3	51.8
45~54	36.2	19.3	16.0	14.2	16.6	24.6	16.9	7.1	9.8	52.3	19.2	57.2
55~64	42.1	25.2	13.5	12.4	13.0	22.5	18.0	9.3	8.3	43.9	18.9	46.5
65~74	33.1	29.4	12.5	13.6	10.5	25.9	19.8	12.7	6.8	49.8	19.3	47.6
75~	43.4	48.1	13.7	18.5	10.3	39.7	31.3	16.2	8.8	81.8	22.1	41.7
男												
総 数	36.5	18.8	21.2	17.6	18.4	26.1	20.2	11.1	11.8	51.5	19.7	70.6
5~14歳	0.7	0.6	0.7	1.0	1.4	0.5	0.6	0.1	0.1	1.3	0.5	4.0
15~24	16.5	10.2	22.1	17.2	20.2	12.3	12.7	6.8	10.6	17.5	14.8	57.7
25~34	28.1	16.3	35.4	22.2	21.7	26.1	17.7	10.3	18.1	40.4	16.2	86.3
35~44	36.9	25.1	29.6	22.5	27.4	35.8	23.3	10.3	17.3	73.3	24.7	93.1
45~54	56.9	30.4	24.3	22.0	24.0	34.3	24.9	10.5	15.3	85.0	26.3	105.3
55~64	65.9	40.2	21.3	20.2	20.6	31.3	25.8	13.9	12.8	75.8	27.6	90.8
65~74	46.1	45.6	21.7	25.0	16.9	39.6	31.0	21.2	9.8	80.8	30.4	98.1
75~	60.7	81.5	30.1	41.7	22.7	80.4	62.0	34.3	15.5	143.9	40.2	84.4
女												
総 数	14.1	8.3	5.1	4.1	5.2	9.4	7.3	3.4	3.3	15.4	8.0	11.9
5~14歳	0.5	0.3	0.5	0.3	0.9	0.2	0.2	0.2	0.0	0.5	0.0	1.1
15~24	7.3	7.0	5.3	3.1	5.5	3.4	3.0	1.7	2.5	4.0	6.3	9.1
25~34	11.6	8.1	8.1	4.8	5.5	7.7	4.4	2.7	3.9	6.5	7.4	10.6
35~44	10.5	9.9	7.3	6.4	7.3	11.2	6.8	3.3	4.7	13.2	11.7	11.6
45~54	15.6	8.1	7.5	6.7	9.2	14.9	8.7	3.7	4.3	21.9	11.8	14.2
55~64	19.5	11.7	5.5	5.2	5.6	14.1	10.5	5.0	4.0	18.5	10.2	14.0
65~74	22.0	18.7	4.1	4.2	4.9	14.8	11.1	5.9	4.2	29.4	9.7	19.4
75~	34.1	32.4	3.4	4.6	2.8	17.5	18.5	6.3	5.1	51.4	10.8	29.2

注：カナダ、ハンガリー、韓国、ロシアは2000年の数値である。
資料：WHO「World Health Statistics Annual 1999, 2000」

図 14 性別自殺死亡率（人口10万対）の年次推移の国際比較



注：カナダ、ハンガリー、韓国、ロシアの1999年は2000年の数値である。
資料：WHO「World Health Statistics Annual」

12. 統計表

第1表 総死亡数・死亡率（人口10万対）・自殺死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

年次	全死因		自殺					
	総数		総数		男		女	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
1899 明治32年	932 087	2 147.5	5 932	13.7	3 699	16.9	2 233	10.4
1900 33	910 744	2 077.1	5 863	13.4	3 716	16.9	2 147	9.9
01 34	925 810	2 087.1	7 847	17.7	4 872	21.8	2 974	13.5
02 35	959 126	2 133.1	8 059	17.9	4 986	22.1	3 073	13.7
03 36	931 008	2 044.1	8 814	19.4	5 547	24.2	3 267	14.4
04 37	955 400	2 070.9	8 966	19.4	5 585	24.1	3 381	14.7
05 38	1 004 661	2 155.0	8 089	17.4	5 020	21.4	3 069	13.2
06 39	955 256	2 030.8	7 657	16.3	4 665	19.8	2 992	12.8
07 40	1 016 798	2 144.4	7 999	16.9	4 836	20.3	3 163	13.4
08 41	1 029 447	2 146.2	8 324	17.4	5 100	21.2	3 224	13.5
09 42	1 091 264	2 247.5	9 141	18.8	5 735	23.6	3 405	14.1
10 43	1 064 234	2 163.8	9 372	19.1	5 928	24.0	3 444	14.0
11 44	1 043 906	2 094.0	9 373	18.8	5 847	23.4	3 526	14.2
12 大正元年	1 037 016	2 050.4	9 475	18.7	5 955	23.5	3 520	14.0
13 2	1 027 257	2 002.3	10 367	20.2	6 474	25.2	3 893	15.2
14 3	1 101 815	2 117.3	10 902	20.9	6 894	26.4	4 008	15.5
15 4	1 093 793	2 073.5	10 153	19.2	6 503	24.6	3 650	13.9
16 5	1 187 832	2 220.4	9 599	17.9	6 065	22.6	3 534	13.3
17 6	1 199 669	2 216.1	9 254	17.1	5 724	21.1	3 530	13.1
18 7	1 493 162	2 727.8	10 101	18.5	6 147	22.4	3 954	14.5
19 8	1 281 965	2 329.4	9 924	18.0	6 158	22.3	3 766	13.7
20 9	1 422 096	2 541.1	10 630	19.0	6 521	23.3	4 109	14.7
21 10	1 288 570	2 274.0	11 358	20.0	6 923	24.4	4 435	15.7
22 11	1 286 941	2 242.4	11 546	20.1	6 984	24.3	4 562	16.0
23 12	1 332 485	2 292.7	11 488	19.8	7 065	24.2	4 423	15.3
24 13	1 254 946	2 131.5	11 261	19.1	6 958	23.5	4 303	14.7
25 14	1 210 706	2 026.7	12 249	20.5	7 521	25.1	4 728	15.9
26 昭和元年	1 160 734	1 911.0	12 484	20.6	7 675	25.1	4 805	15.9
27 2	1 214 323	1 969.4	12 845	20.8	7 912	25.5	4 933	16.1
28 3	1 236 711	1 975.7	13 032	20.8	7 984	25.4	5 048	16.2
29 4	1 261 228	1 987.4	12 740	20.1	7 915	24.8	4 825	15.3
30 5	1 170 867	1 816.7	13 942	21.6	8 810	27.2	5 132	16.0
31 6	1 240 891	1 895.7	14 353	21.9	9 102	27.7	5 251	16.1
32 7	1 175 344	1 769.2	14 746	22.2	9 272	27.8	5 474	16.5
33 8	1 193 987	1 770.7	14 805	22.0	9 110	26.9	5 695	17.0
34 9	1 234 684	1 807.5	14 554	21.3	9 065	26.4	5 489	16.1
35 10	1 161 936	1 677.8	14 172	20.5	8 733	25.1	5 438	15.8
36 11	1 230 278	1 754.7	15 423	22.0	9 766	27.8	5 657	16.2
37 12	1 207 899	1 710.2	14 295	20.2	8 923	25.4	5 372	15.1
38 13	1 259 805	1 774.1	12 223	17.2	7 585	21.6	4 638	12.9
39 14	1 268 760	1 777.5	10 785	15.1	6 502	18.5	4 283	11.8
40 15	1 186 595	1 649.6	9 877	13.7	5 841	16.5	4 036	11.0
41 16	1 149 559	1 603.7	9 713	13.6	5 667	16.3	4 046	10.9
42 17	1 166 630	1 611.7	9 393	13.0	5 498	15.8	3 895	10.4
43 18	1 219 073	1 672.6	8 784	12.1	5 115	14.7	3 669	9.6
47 22	1 138 238	1 457.4	12 262	15.7	7 108	18.6	5 154	12.9
48 23	950 610	1 188.2	12 753	15.9	7 331	18.7	5 422	13.3
49 24	945 444	1 156.2	14 201	17.4	8 391	20.9	5 810	13.9
50 25	904 876	1 087.6	16 311	19.6	9 820	24.1	6 491	15.3
51 26	838 998	992.0	15 415	18.2	9 035	21.8	6 380	14.8

年次	全死因		自殺				殺		
	総数		総数		男		女		
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
52	27	765 068	891.1	15 776	18.4	9 171	21.8	6 605	15.1
53	28	772 547	887.6	17 731	20.4	10 450	24.4	7 281	16.4
54	29	721 491	817.2	20 635	23.4	12 641	29.1	7 994	17.8
55	30	693 523	776.8	22 477	25.2	13 836	31.5	8 641	19.0
56	31	724 460	802.6	22 107	24.5	13 222	29.8	8 885	19.4
57	32	752 445	826.1	22 136	24.3	13 276	29.7	8 860	19.1
58	33	684 189	743.6	23 641	25.7	13 895	30.7	9 746	20.8
59	34	689 959	742.1	21 090	22.7	12 179	26.6	8 911	18.9
60	35	706 599	756.4	20 143	21.6	11 506	25.1	8 637	18.2
61	36	695 644	737.8	18 446	19.6	10 333	22.3	8 113	16.9
62	37	710 265	746.2	16 724	17.6	9 541	20.4	7 183	14.8
63	38	670 770	697.6	15 490	16.1	8 923	18.9	6 567	13.4
64	39	673 067	692.6	14 707	15.1	8 336	17.5	6 371	12.9
65	40	700 438	712.7	14 444	14.7	8 330	17.3	6 114	12.2
66	41	670 342	676.7	15 050	15.2	8 450	17.4	6 600	13.1
67	42	675 006	677.5	14 121	14.2	7 940	16.2	6 181	12.2
68	43	686 555	681.1	14 601	14.5	8 174	16.5	6 427	12.5
69	44	693 787	680.0	14 844	14.5	8 241	16.4	6 603	12.7
70	45	712 962	691.4	15 728	15.3	8 761	17.3	6 967	13.3
71	46	684 521	656.0	16 239	15.6	9 157	17.9	7 082	13.3
72	47	683 751	646.6	18 015	17.0	10 231	19.7	7 784	14.4
73	48	709 416	656.4	18 859	17.4	10 730	20.2	8 129	14.8
74	49	710 510	649.4	19 105	17.5	10 723	20.0	8 382	15.0
75	50	702 275	631.2	19 975	18.0	11 744	21.5	8 231	14.6
76	51	703 270	625.6	19 786	17.6	11 744	21.2	8 042	14.1
77	52	690 074	608.0	20 269	17.9	12 299	22.0	7 970	13.8
78	53	695 821	607.6	20 199	17.6	12 409	22.0	7 790	13.4
79	54	689 664	597.3	20 823	18.0	12 851	22.6	7 972	13.6
80	55	722 801	621.4	20 542	17.7	12 769	22.3	7 773	13.1
81	56	720 262	614.5	20 096	17.1	12 708	22.0	7 388	12.4
82	57	711 883	603.2	20 668	17.5	13 203	22.7	7 465	12.5
83	58	740 038	623.0	24 985	21.0	16 876	28.9	8 109	13.4
84	59	740 247	619.3	24 344	20.4	16 251	27.6	8 093	13.3
85	60	752 283	625.5	23 383	19.4	15 356	26.0	8 027	13.1
86	61	750 620	620.6	25 667	21.2	16 499	27.8	9 168	14.9
87	62	751 172	618.1	23 831	19.6	15 281	25.6	8 550	13.8
88	63	793 014	649.9	22 795	18.7	14 290	23.8	8 505	13.7
89	平成元年	788 594	644.0	21 125	17.3	12 939	21.5	8 186	13.1
90	2	820 305	668.4	20 088	16.4	12 316	20.4	7 772	12.4
91	3	829 797	674.1	19 875	16.1	12 477	20.6	7 398	11.8
92	4	856 643	693.8	20 893	16.9	13 516	22.3	7 377	11.7
93	5	878 532	709.7	20 516	16.6	13 540	22.3	6 976	11.1
94	6	875 933	706.0	20 923	16.9	14 058	23.1	6 865	10.9
95	7	922 139	741.9	21 420	17.2	14 231	23.4	7 189	11.3
96	8	896 211	718.6	22 138	17.8	14 853	24.3	7 285	11.5
97	9	913 402	730.9	23 494	18.8	15 901	26.0	7 593	11.9
98	10	936 484	747.7	31 755	25.4	22 349	36.5	9 406	14.7
99	11	982 031	782.9	31 413	25.0	22 402	36.5	9 011	14.1
2000	12	961 653	765.6	30 251	24.1	21 656	35.2	8 595	13.4
01	13	970 331	770.7	29 375	23.3	21 085	34.2	8 290	12.9
02	14	982 379	779.6	29 949	23.8	21 677	35.2	8 272	12.8
03	15	1 014 951	804.6	32 109	25.5	23 396	38.0	8 713	13.5

注：昭和19～21年は資料不備のために省略した。

第2表 性・年齢（5歳階級）別死因順位

—平成15年—

年齢階級	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)
男										
総数	悪性新生物	33.9	心疾患	14.1	脳血管疾患	11.5	肺炎	9.2	不慮の事故	4.3
10～14歳	不慮の事故	24.1	悪性新生物	18.6	心疾患	9.0	自殺	8.5	その他の新生物	4.5
15～19	不慮の事故	43.5	自殺	21.5	悪性新生物	8.6	心疾患	7.0	先天奇形・染色体異常	1.7
20～24	自殺	36.4	不慮の事故	31.5	悪性新生物	7.5	心疾患	7.3	脳血管疾患	1.9
25～29	自殺	41.6	不慮の事故	23.8	心疾患	8.3	悪性新生物	7.5	脳血管疾患	2.2
30～34	自殺	38.9	不慮の事故	18.0	心疾患	11.0	悪性新生物	9.7	脳血管疾患	3.9
35～39	自殺	32.8	悪性新生物	13.4	心疾患	12.9	不慮の事故	12.7	脳血管疾患	7.2
40～44	自殺	27.1	悪性新生物	19.1	心疾患	13.2	不慮の事故	9.9	脳血管疾患	8.6
45～49	悪性新生物	27.0	自殺	19.7	心疾患	13.7	脳血管疾患	9.2	不慮の事故	7.8
50～54	悪性新生物	34.3	心疾患	14.1	自殺	13.8	脳血管疾患	9.4	不慮の事故	6.2
55～59	悪性新生物	40.7	心疾患	13.6	自殺	10.1	脳血管疾患	8.6	不慮の事故	5.2
60～64	悪性新生物	44.6	心疾患	13.4	脳血管疾患	9.1	自殺	5.7	不慮の事故	4.4
65～69	悪性新生物	46.6	心疾患	13.2	脳血管疾患	9.7	肺炎	4.3	不慮の事故	3.8
70～74	悪性新生物	44.6	心疾患	13.1	脳血管疾患	10.6	肺炎	6.4	不慮の事故	3.4
75～79	悪性新生物	37.8	心疾患	13.8	脳血管疾患	12.3	肺炎	9.6	不慮の事故	3.2
80～84	悪性新生物	30.1	心疾患	14.6	脳血管疾患	13.8	肺炎	13.3	不慮の事故	3.2
85～89	悪性新生物	22.6	肺炎	16.8	心疾患	16.4	脳血管疾患	14.9	慢性閉塞性肺疾患	3.2
90～	肺炎	20.9	心疾患	17.1	悪性新生物	15.4	脳血管疾患	14.1	老衰	7.1
女										
総数	悪性新生物	26.5	心疾患	17.6	脳血管疾患	14.9	肺炎	9.6	老衰	3.7
10～14歳	悪性新生物	24.6	不慮の事故	20.0	自殺	11.2	心疾患	8.8	先天奇形・染色体異常	3.9
15～19	自殺	28.1	不慮の事故	25.6	悪性新生物	12.6	心疾患	6.8	先天奇形・染色体異常	2.2
20～24	自殺	38.0	不慮の事故	19.6	悪性新生物	12.8	心疾患	5.7	脳血管疾患	2.2
25～29	自殺	38.9	悪性新生物	17.0	不慮の事故	12.0	心疾患	5.4	脳血管疾患	3.4
30～34	自殺	30.2	悪性新生物	28.2	不慮の事故	8.8	心疾患	6.0	脳血管疾患	3.4
35～39	悪性新生物	38.1	自殺	21.5	心疾患	7.4	不慮の事故	6.4	脳血管疾患	5.5
40～44	悪性新生物	47.9	自殺	13.3	心疾患	7.8	脳血管疾患	7.3	不慮の事故	5.4
45～49	悪性新生物	52.8	自殺	9.2	脳血管疾患	9.0	心疾患	6.6	不慮の事故	4.6
50～54	悪性新生物	55.4	脳血管疾患	9.3	心疾患	7.6	自殺	7.0	不慮の事故	4.0
55～59	悪性新生物	54.0	脳血管疾患	9.9	心疾患	9.0	自殺	5.7	不慮の事故	3.6
60～64	悪性新生物	50.4	心疾患	10.5	脳血管疾患	9.7	自殺	4.3	不慮の事故	3.6
65～69	悪性新生物	46.1	心疾患	12.1	脳血管疾患	10.5	不慮の事故	3.6	肺炎	3.4
70～74	悪性新生物	39.5	心疾患	14.9	脳血管疾患	11.8	肺炎	5.0	不慮の事故	3.7
75～79	悪性新生物	31.9	心疾患	17.4	脳血管疾患	14.6	肺炎	7.2	不慮の事故	3.5
80～84	悪性新生物	24.5	心疾患	19.3	脳血管疾患	16.8	肺炎	9.9	不慮の事故	3.1
85～89	心疾患	21.1	悪性新生物	18.0	脳血管疾患	17.7	肺炎	12.7	老衰	4.0
90～	心疾患	21.1	脳血管疾患	17.0	肺炎	15.5	悪性新生物	10.7	老衰	10.7

注：1) 割合はそれぞれ年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

2) 死因の順位は死亡数の多いものから定めた。

13. 参考

観察対象の範囲

観察対象は、次の表に示すとおりである。

地域範囲	昭和18年以前	沖縄を含む旧内地(樺太を除く)
	昭和22～25年	北海道、本州、四国、九州に属する地域のうち、北海道根室支庁の一部、東京都小笠原支庁、島根県竹島、鹿児島県大島郡十島村北緯30度以南、沖縄全県を除く地域
	昭和26～47年	昭和26年12月5日以降 : 鹿児島県大島郡十島村北緯29～30度(吐喝喇列島)を含む 昭和28年12月25日以降 : 同村北緯29度以南(奄美群島)を含む 昭和43年6月26日以降 : 東京都小笠原村を含む
	昭和48年以降	沖縄を含む。したがって、北海道、本州、四国、九州に属する地域のうち、北海道根室支庁の一部、島根県竹島を除く地域
観察対象の地域的属性	昭和18年以前 昭和22年以降	死亡の場所が前掲の地域にあるもの
観察対象の人的範囲	昭和18年以前	死亡者の本籍が沖縄、樺太を含む旧内地にあるもの
	昭和22年以降	死亡者の本籍が北海道、本州、四国、九州及び沖縄にあるもの*
観察期間	大正11年以前	各年1月1日から翌年3月31日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	大正12～ 昭和18年	各年1月1日から翌年1月31日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和22年	各年1月1日から12月31日までに届け出られたもののうち、同年中に事件発生のもの
	昭和23～42年	各年1月1日から翌年4月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和43～45年	各年1月1日から翌年2月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和46年以降	各年1月1日から翌年1月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
都道府県の分類の基準	昭和18年以前 昭和22～24年	発生地に基づき各年1月1日現在の行政区画によって分類
	昭和25～46年	死亡当時の住所に基づき事件発生当時の行政区画によって分類
	昭和47年以降	死亡当時の住所に基づき届出当時の行政区画によって分類

* 昭和58年3月以前には、北海道根室支庁の一部は含まない。

自殺の分類及び内容

ICD-10 基本分類番号	死 因 名	ICD-6 基本分類番号	ICD-7 基本分類番号	ICD-8 基本分類番号	ICD-9 基本分類番号
平成7年以降		昭和25～32年	昭和33～42年	昭和43～53年	昭和54～平成6年
X60～X84	故意の自傷および自殺	E970～E979	E963, E970～E979	E950～E959	E950～E959
X60, X61	鎮痛薬および睡眠薬による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	E970	E970. a～d	E950a～c	E950. 0, 1～3
X62～X66, X69	その他および詳細不明の薬物による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	E971	E971. a, c, d	E950. f	E950. 4～9 (E950. 6を除く。)
X67	その他のガスおよび蒸気による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	E972, E973	E972, E973	E951, E952	E951, E952
X68	農薬による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺	...	E971. b	E950. e	E950. 6
X70	縊首, 絞首および窒息による故意の自傷および自殺	E974	E974	E953	E953
X71	溺死および溺水による故意の自傷および自殺	E975	E975	E954	E954
X72～X75	銃器および爆発物による故意の自傷および自殺	E976	E976	E955	E955
X76	煙, 火および火災による故意の自傷および自殺	E958. 1
X78	鋭利な物体による故意の自傷および自殺	E977	E977	E956	E956
X80	高所からの飛び降りによる故意の自傷および自殺	E978	E978	E957	E957
X80. 0	住 宅 ²⁾	E957. 0
X81	移動中の物体の前への飛び込みまたは横臥による故意の自傷および自殺	...	E979. a	E958. a	E958. 0
X77, X79, X82～X84	その他の明示されたおよび詳細不明の手段による故意の自傷および自殺	E979	E979. b	E958. b	E958. 2～9
(Y87. 0) ³⁾	故意の自傷の続発・後遺症	(E953) ³⁾	E963	E959	E959

注：1) 「ICD-6」～「ICD-9」は「第6回修正～第9回修正国際疾病分類」、「ICD-10」は「第10回修正疾病及び関連保健問題の国際統計分類」をいう。

2) 「住宅」は4桁基本分類を用いた。

3) 昭和25年～32年と平成7年以降は「故意の自傷の続発・後遺症」は自殺の合計には含まない。

比率の解説

① 総死亡率

$$= \frac{\text{年間の総死亡数}}{\text{10月1日現在の日本人人口}} \times 100,000$$

② 自殺死亡率(総数・男・女)

$$= \frac{\text{年間の自殺死亡数(総数・男・女)}}{\text{10月1日現在の日本人人口(総数・男・女)}} \times 100,000$$

③ 年齢階級別自殺死亡率(総数・男・女)

$$= \frac{\text{年間の年齢階級別自殺死亡数(総数・男・女)}}{\text{10月1日現在の日本人(総数・男・女)の年齢階級別人口}} \times 100,000$$

④ 性・年齢階級・配偶関係別自殺死亡率(男・女)

$$= \frac{\text{年齢階級・配偶関係別自殺死亡数(男・女)}}{\text{国勢調査による年齢階級・配偶関係別人口(男・女)}} \times 100,000$$

注：配偶関係は、総数・有配偶・未婚・死別・離別である。

⑤ 1日平均自殺死亡数

$$= \frac{\text{月間の自殺死亡数}}{\text{当該月の日数(30、31、28又は29)}}$$

⑥ 自殺年齢調整死亡率

$$= \frac{\text{(観察集団の年齢階級別自殺死亡率} \times \text{基準人口集団の年齢階級別人口)の総和}}{\text{基準人口集団の総和}}$$

年齢調整死亡率とは、年齢構成の異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率について、その年齢構成の差を取り除いて比較ができるように調整した死亡率をいう。
基準人口は、昭和60年モデル人口である。

基準人口 - 昭和60年モデル人口 -

年 齢	基 準 人 口
0～4歳	8 180 000
5～9	8 338 000
10～14	8 497 000
15～19	8 655 000
20～24	8 814 000
25～29	8 972 000
30～34	9 130 000
35～39	9 289 000
40～44	9 400 000
45～49	8 651 000
50～54	7 616 000
55～59	6 581 000
60～64	5 546 000
65～69	4 511 000
70～74	3 476 000
75～79	2 441 000
80歳以上	2 190 000
総 数	120 287 000

警察庁「自殺の概要」

警察庁のまとめた「自殺の概要」から一部を抜粋して紹介すると次のとおりである。なお、警察庁のまとめた「自殺の概要」の自殺者数と厚生労働省のまとめた「人口動態統計」の自殺死亡数の差異は下記によるものである。

1 調査対象の差異

警察庁では、総人口(日本における外国人も含む。)を対象としているのに対し、厚生労働省は、日本における日本人を対象としている。

2 調査時点の差異

警察庁では、発見地を基に自殺死体発見時点(正確には認知)で計上しているのに対し、厚生労働省は、住所地を基に死亡時点で計上している。

3 事務手続き上(訂正報告)の差異

警察庁では、死体発見時に自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときには、検視調書または死体検分調書が作成されるのみであるが、その後の調査等により自殺と判明したときは、その時点で計上する。これに対し、厚生労働省は、自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上していない。

参考表 性・年齢・原因・動機別自殺者数

—平成15年—

原因・動機	総数	0～19歳	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	不詳	
総数	34 427	613	3 353	4 603	5 419	8 614	11 529	296	
遺書あり	家庭問題	971	14	66	137	182	225	346	1
	健康問題	3 890	35	259	372	408	908	1 908	0
	経済・生活問題	3 654	7	174	433	847	1 421	772	0
	勤務問題	616	0	88	139	144	196	49	0
	男女問題	287	27	113	75	36	32	4	0
	学校問題	63	39	22	1	1	0	0	0
	その他	607	21	108	80	82	128	187	1
	不詳	299	14	56	47	38	66	68	10
	計	10 387	157	886	1 284	1 738	2 976	3 334	12
遺書なし	24 040	456	2 467	3 319	3 681	5 638	8 195	284	
男	24 963	365	2 357	3 373	4 388	6 899	7 312	269	
遺書あり	家庭問題	649	8	48	95	142	160	196	0
	健康問題	2 369	16	141	220	276	606	1 110	0
	経済・生活問題	3 309	6	165	401	779	1 300	658	0
	勤務問題	569	0	71	129	139	184	46	0
	男女問題	171	10	64	48	18	27	4	0
	学校問題	49	29	18	1	1	0	0	0
	その他	460	13	81	66	71	104	125	0
	不詳	230	8	43	36	32	56	48	7
	計	7 806	90	631	996	1 458	2 437	2 187	7
遺書なし	17 157	275	1 726	2 377	2 930	4 462	5 125	262	
女	9 464	248	996	1 230	1 031	1 715	4 217	27	
遺書あり	家庭問題	322	6	18	42	40	65	150	1
	健康問題	1 521	19	118	152	132	302	798	0
	経済・生活問題	345	1	9	32	68	121	114	0
	勤務問題	47	0	17	10	5	12	3	0
	男女問題	116	17	49	27	18	5	0	0
	学校問題	14	10	4	0	0	0	0	0
	その他	147	8	27	14	11	24	62	1
	不詳	69	6	13	11	6	10	20	3
	計	2 581	67	255	288	280	539	1 147	5
遺書なし	6 883	181	741	942	751	1 176	3 070	22	

資料：警察庁生活安全局地域課「自殺の概要」